その活動は、災害時の情報のために

特定非営利活動法人

NPO愛知ネット　活動記録2006

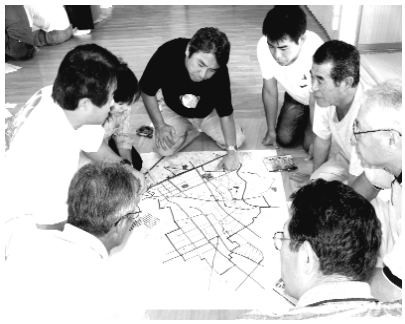
特定非営利活動法人
NPO愛知ネット
Non-Profit Organization NPO Aichi Net

その活動は、
災害時の
情報のために。

NPO愛知ネットは、ホームページでボランティアへ呼びかけるとともに、
被災状況など必要な情報を逐次流してきました。
そこで痛感したのは、日ごろからの人と人の「つながり」と、
いざとなったときの「情報システム」の構築の必要性。
「災害救援」、「防災啓発」、「在日外国人支援」、「市民活動支援」の4つからなる活動は、
被災地でNPO愛知ネットが活動した時の「教訓」が生きています。

■防災･災害救援
Active in disaster & Preparedness

災害時には、被災地内外を問わずボランティアに関する支援活動を行います。支援に必要なひとの確保や手配を行い、地元のボランティアと連携してコーディネートを行います。また安否確認システムの普及を行います。



被災地での情報発信及び、被災地域外での情報支援活動
地域防災訓練の企画と実施
「あんぴメール」による安否確認システム構築

■社会教育
Social education

NPO愛知ネットは、愛知県青年の家が公の施設であることを認識し、公平･公正な運営を厳守し、全ての県民が、あらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実生活に即した教養を高められるように、愛知県青年の家として環境を整えた社会教育の場を提供します。同時に、当該施設を社会教育拠点と位置づけ、地域の教育機関関連機関等と連携しながら、「青少年の『創造力』『生きる力』『和（役立ち合い）の精神』の教養･向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す」社会教育施設を目指します。

「愛知県青年の家(岡崎市)」の運営

■市民活動団体サポート
NPO support

ボランティア活動団体、市民団体、ＮＰＯで活動しているみなさんが活動しやすい環境づくりを目指して、インターネット環境はもとより、「わくわくセンター」「刈谷市民ボランティア活動支援センター」を運営し、情報と市民活動支援の新しいあり方を提案しています。

「わくわくセンター」の運営
「刈谷市民ボランティア活動支援センター」の運営
市民団体情報化のための支援活動

■まちづくり
Town planning

災害時には日ごろからのつきあいやネットワークの力が役立ちます。それを充実させ活性化させていくことはまさに「防災の活動」といえます。ＮＰＯ愛知ネットでは、親子キャンプ･セミナーなど各種イベントの企画実行を通して日ごろからの「地域力向上」に貢献しています。

国際交流祭・親子キャンプなどの企画・実施
外国人のための生活情報支援
防災に関する講演会・セミナーの実施

NPO愛知ネット　活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

■防災･災害救援

Active in disaster & Preparedness

近年の東海・東南海地震強化地域の拡充に伴って、ＮＰＯ愛知ネットに対する地域からの防災活動に関するニーズが以前にも増して多くなってきました。

このような状況に際してＮＰＯ愛知ネットはこれまで行ってきた各種の啓発・訓練、情報伝送に関する各種実証実験を統合し、地域に根ざす実効性のある事業を実施しました。

具体的には各地防災訓練への参加、安否確認システムの普及のための活動がそれにあたります。

また、全国各地で相次いだ災害により被災した地域に赴き、情報発信支援やボランティアバスの派遣など積極的に救援活動を行いました。

Ⅰ.『安否確認システム』

災害時、安否確認は重要なことのひとつですが、この安否確認システムは今までのシステムとは違うあたらしい形式の仕組みです。携帯電話を使ったこの安否確認システムは、災害が起こると自動的にシステムが各人の安否を確認し、応答するとあらかじめ登録された家族などに応等文が転送される仕組みです。またこの他に情報収集機能や普段から使えるしくみなども搭載しています。

（1）あんぴメールの主な機能

【安否確認】

あんぴメールシステムは、日本気象協会の気象情報を常にモニタしています。
東海 4 県エリアで震度 5 以上は発生すると登録者の携帯電話にメールを自動配信して、各人の安否を確認します。確認された情報はあらかじめ登録した家族の携帯電話にメールでしらせます。また安否確認状況を管理画面で確認したり、遠くにいる親戚が検索して確認する機能も搭載しています。

【災害情報収集】

あんぴメールシステムは、一方で個人からきめ細かい被害情報を収集することを目的にして開発されました。個人個人の携帯から発せられる細かい情報を相対的に見ることで、救援や対策に確実なプライオリティがつけられると考えたからです。　安否確認メール発信後、システムは災害情報募集メールを再び登録者に発信し、災害状況の報告を促します。現在は時系列で情報が表示されるのみですが、電柱管理番号を使ったＧＩＳ（地理情報システム）プロットの機能を搭載する予定です。これにより、各人の携帯電話から発信された文字情報と画像情報、位置情報が瞬時に収集され、状況をつかむことができます

【普段でも使える工夫】

普段でも使える工夫として、日本気象協会提供の気象情報の中から、天気予報、警報、東海地震に関する情報、エリア内での震度３、４の地震情報を配信する機能を搭載しています。また、管理者から任意のメッセージを配信できるほか、質問文を任意で変更できる機能や、音声のやり取りのみで情報を登録できる機能も開発中です。

（２）防災ＮＰＯ愛知ネット「あんぴメール」県内自治体も利用検討

災害時の救援活動などに取り組むＮＰＯ法人「ＮＰＯ愛知ネット」（安城市）が開発した安否確認システム「あんぴメール」が注目を集めています。地震などの発生時、自分の安否や居場所を携帯電話の電子メールを使って知らせることができるほか、災害情報の収集にも役立つ機能が盛り込まれています。家族や会社のほか、県内自治体も利用を検討しています。

「あんぴメール」は、阪神大震災が発生して９年目に当たる昨年１月１７日に立ち上げました。日本気象協会と協力し、震度５弱以上の地震が発生すると、システムに登録した会員に災害情報が自動的に配信されます。

受け取った会員は、自らの安否や避難場所などを入力し、あらかじめ入力した複数の相手に知らせることができます。また、同ネットのホームページでも登録者の安否情報が検索できる。難しい文字の入力などは不要で、画面表示に従い、ボタン操作をするだけです。同様のシステムは民間企業も開発しているが伝言板方式が多く、あんぴメールは直接、家族などに情報を送ることができるのが利点。

もう１つの機能として災害情報の伝達があります。会員は、カメラ付き携帯電話などの機能を活用し、道路の陥没や家屋の倒壊、水道管の破裂状況などを撮影。電柱の管理番号を入力するだけで全地球測位システム（ＧＰＳ）機能が働き、撮影場所の被災状況を写真付きで伝えられます。この機能は、自治体の職員が自宅から役場などに向かう途中にも利用できることから、情報収集手段としても注目されています。

登録費は１人、１カ月１００円（消費税別）。会員は県内中心に現在は約 4000 人だが、60 年前に三河地震の被害を受けた安城市や西尾市などが利用を検討しています。

天野竹行理事長は「自らの安否を知らせるだけでなく、被災状況を早く伝えることも大切。日頃から災害のことを意識し、いざという時に備えてほしい」と話しています。

http://dprec.aitech.ac.jp/aisite/modules/news/index.php?storytopic=6&start=15

愛知工業大学 地域防災研究センター HP から引用

2006 年度あんぴメール新規加入団体

団体名	開始日	契約人数	加入対象
知立市役所	6 月 1 日	200 名	市役所職員、消防団、議員、町内会役員、学校関係者等
衣浦東部広域連合	8 月 1 日	100 名	
高浜市役所	8 月 1 日	300 名	
日進市役所	12 月 1 日	100 名	

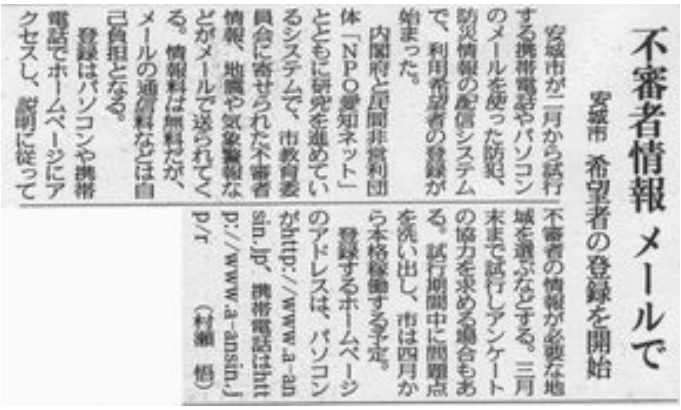
緊急通報メール配信
高浜市 8月から
災害情報など迅速に

NPO愛知ネット　活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

（３）『安全安心メール』

昨今、子どもたちに対する痛ましい事件が続きます。地域に暮らす皆さんが力を合わせて、子どもたちが安全に過ごせるまちづくりをしていくことが必要です。内閣府・安城市・NPO 愛知ネットで実施している「地域情報流通システムによる《安全･安心》プロジェクト」の一環として、防犯・防災情報を携帯電話やパソコンにメール配信します。登録方法はいたって簡単です。安城市ホームページからも登録できるほか、携帯電話からも登録できます。登録者数は約 2000 名（2007 年 3 月 15 日現在）となっています。



不審者情報 メールで

安城市 希望者の登録を開始

安城市が二月から試行する携帯電話やパソコンのメールを使った防犯、防災情報の配信システムで、利用希望者の登録が始まった。

内閣府と民間非営利団体「NPO愛知ネット」とともに研究を進めているシステムで、市教育委員会に寄せられた不審者情報、地震や気象警報などがメールで送られてくる。情報料は無料だが、メールの通信料などは自己負担となる。

登録はパソコンや携帯電話でホームページにアクセスし、説明に従って不審者の情報が必要な地域を選ぶなどする。三月末まで試行しアンケートの協力を求める場合もある。試行期間中に問題点を洗い出し、市は四月から本格稼働する予定。

登録するホームページのアドレスは、パソコンがhttp://www.a-ansin.jp、携帯電話はhttp://www.a-ansin.jp/r

（村瀬 悟）

06.01.17 中日新聞

【パソコンからの登録】

登録ＵＲＬ　＝　http://www.a-ansin.jp

安城市 HP　＝　http://www.city.anjo.aichi.jp/

【携帯電話から登録】

登録ＵＲＬ＝ http://www.a-ansin.jp/r

Ⅱ．防災訓練

（１）愛知県・南知多町総合防災訓練に参加

広域ボランティア支援本部設置訓練

【日　時】：9 月 2 日（土）　9 時 30 分～12 時 00 分

【場　所】：愛知県東大手庁舎（名古屋市中区三の丸三丁目１番２号）１階 C 会議室

（２）西尾市総合防災訓練に参加

【日　時】：11 月 19 日（日）　9 時 00 分～12 時 00 分

【場　所】：西尾市立福地中学校（西尾市上道目記町上新田１２）グラウンド

Ⅲ．防災カレッジ

（１）地域講座の目的および役割分担

災害に対する正しい知識や防災活動の技術を習得することで、地域の実践的なリーダーを養成し、地域防災の中心として活動できる資質を養い、合わせてリーダー同士のネットワークを構築することで地域防災力を総合的に高めることを目的としています。特に地域講座では、それぞれの特徴を把握するために地域の地図を使った図上訓練（ＤＩＧ）および現在活動中の組織を理解するための自主防災活性化演習を行いました。

「平成１８年度あいち防災カレッジ地域講座」の開講に際しては、「あいち防災リーダー会」の協力を頂いて行いました。図上訓練（ＤＩＧ）および自主防災組織活性化演習については、ＮＰＯ愛知ネットが全体の調整・準備・コーディネートを行い、「あいち防災リーダー会」の方々に講座全体の進行を行っていただきました。また、地域消防防災論、応急手当実習については、各地域の消防署、防災局の担当者にご協力をいただきました。

（２）講座日程

日	曜	①名古屋会場	②尾張会場	③海部会場	④知多会場	⑤西三河会場	⑥東三河会場
8/26	土			図上訓練			
9/03	日	地域ボランティア論演習					図上訓練
9/09	土		図上訓練		地域ボランティア論演習		
9/10	日			地域ボランティア論演習			
9/16	土	図上訓練				地域ボランティア論演習	
9/17	日				図上訓練		
9/23	土			地域防災論応急手当実習		図上訓練	
9/24	日						地域ボランティア論演習
9/30	土		地域ボランティア論演習		地域防災論応急手当実習		
10/07	土		地域防災論応急手当実習				
10/09	祝					地域防災論応急手当実習	
10/15	日			自主防災組織活性化演習			地域防災論応急手当実習
10/21	土	地域防災論応急手当実習			自主防災組織活性化演習		
10/28	土		自主防災組織活性化演習				
10/29	日					自主防災組織活性化演習	
11/03	祝						自主防災組織活性化演習
11/05	日	自主防災組織活性化演習					
担当		特定非営利活動法人　レスキューストックヤード			特定非営利活動法人 NPO 愛知ネット		

(３) 地域講座会場および特色

①　名古屋会場　　名古屋市消防局中消防署４階講堂（名古屋市中区栄一丁目 23-13）
⇒：会議室での飲食はできない。駐車場がない。通常エレベーターが止まらない。

②　尾張会場 東大手庁舎２階生涯学習推進センター研修室（名古屋市中区三の丸 3-2-1）
⇒：会場が若干狭いので、参加者が多いと窮屈。空調の利きが悪い。

③　海部会場 愛西市佐織公民館３階第 1・２研修室（愛西市諏訪町郷西 456-1）
⇒：概ね良好。

④　知多会場 常滑市鬼崎公民館２階会議室（常滑市神明町 3 丁目 35）
⇒：エレベーターがなく備品の運搬に苦労。

⑤　西三河会場　　岡崎市消防本部３階講堂（愛知県岡崎市朝日町 3 丁目４番地）
⇒：エレベーターがなく備品の運搬に苦労。日曜日の駐車場確保が困難。

⑥　東三河会場　　豊橋市職員会館５階会議室（豊橋市八町通二丁目 16）
⇒：休日は１階喫茶店が会議室を管理。駐車場は市役所利用。スクリーン小さい。

(４) 地域講座運営に関する事前会合

日　　時：平成 18 年 6 月 27 日（火）　10:00～12:00
場　　所：愛知県東大手庁舎 401 会議室
出 席 者：今泉、栗田、太田、早川、寺田、松原
内　　容：

①　担当の確認
1.　あいち防災リーダー会／
図上訓練（ＤＩＧ）および自主防災組織活性化演習の講師、ファシリテータ６人。
2.　レスキューストックヤード／
受付、講座開始及び終了のあいさつ、物品の準備、会場設置、地域ボランティア論演習の講師およびファシリテータ６人。
3.　ＮＰＯ愛知ネット／
受付、講座開始および終了のあいさつ、物品の準備、会場設置。

②　スタッフ数・名前の確認
・各ブロック７名（講師含む）＋　事務局１～２名
→各ブロックからのスタッフの名前は、後日確認。

③　集合時間の確認
・９時３０分集合　　※一時間前に集合し会場設営、事前打ち合わせをする。

④　講座の流れについて
１０人程度を１グループで構成し、図上訓練と自主防災活性化演習でワークを実施
各グループは、リーダー・書記・発表者等を決めてリーダーの指示の元に活動する。

図上訓練(DIG)

1　災害図上訓練の狙い

① 各地域の地図をもとに被害想定状況と災害救援のあり方を理解し、体験する。

② 自分たちの町の解っていなかった状況、危険な場所とか寸断されそうな場所も、地図に落とし込む事によって解ってくる。 解ってくれば、自分達の町がどの様な状況になっているのかを把握することが出来る。

③ みんなで参加し、一緒になって協同作業を行う事によって仲間意識を深める事が出来ると共に、相互の連帯感の充実を図ることが出来る。

④ 地域で実践していただくために、その「やり方」を体験しながら覚えて貰う。

2　開催会場、開催日、担当

開催会場	開催日	担当 NPO
①名古屋会場	09/16　土	レスキュー･ストックヤード
②尾張会場	09/09　土	レスキュー･ストックヤード
③海部会場	08/26　土	レスキュー･ストックヤード
④知多会場	09/17　日	NPO 愛知ネット
⑤西三河会場	09/23　土	NPO 愛知ネット
⑥東三河会場	09/03　日	NPO 愛知ネット

3　災害図上訓練の流れ

10：20-10：30オリエンテーション：10 分（事務局、防災局、あいち防災リーダー会挨拶）

10：30-11：20　ＤＩＧ(1)

①災害図上訓練ＤＩＧとは何かの説明

②今日の目的・目標の確認

③東海地域の地図を使った災害図上訓練

11：20-14：00　ＤＩＧ(2)

④グループ分け、自己紹介

⑤愛知県全図を使った災害図上訓練

14：10-15：50ＤＩＧ(3)

⑥地域(市・町)の地図を使った災害訓練災害

15：50-16：15　ＤＩＧ(4)

⑦グループ発表

16：15-16：20事務連絡（愛知県防災局、NPO 愛知ネット）

16：20-16：30　後片付け（全員）

(４)「あいち防災リーダー会」協力者

開催会場	開催日	氏　名
①名古屋会場	09/16　土	太田、板頭、早川 (名古屋ブロック)　増田、鳥山、森、日比野、山本、浜島、藤井、今井、石井
②尾張会場	09/09　土	太田、板頭、早川 (尾張ブロック) 原田、伊藤、渡辺、加藤千、河津、山田、青山 (名古屋ブロック) 石井、今井、鳥山
③海部会場	08/26　土	太田、板頭、早川 (海部ブロック) 高木、福田、杉本、百合草、青木、山田、松本、浅野、伊藤芳 (尾張ブロック) 原田、伊藤、渡辺
④知多会場	09/17　日	保坂、岸野、廣江 (知多ブロック) 遠藤、岸野
⑤西三河会場	09/23　土	太田、板頭、早川 (西三河ブロック) 久保田、杉浦、神谷、中根 (尾張ブロック) 河津、寺本
⑥東三河会場	09/03　日	太田、板頭、早川 (東三河ブロック) 伊藤、大久保、尾浦、酒井、大桑、渡辺 (西三河ブロック) 間瀬

開催会各会場での協力者は、「あいち防災リーダー会」の各支部より参加をいただきました。これまでに防災カレッジを卒業し、現在地域で活躍されている方々にコーディネーターを行なっていただくことで、より地域の特徴に即したコミュニケーションができました。なお、当講座を自主的な勉強の機会として参加していただいた防災リーダーもおり、地域講座研修としてネットワークをつくるのには有効な機会でした。各日の防災リーダー協力者は９～１５名とたくさんの方に協力をいただきました。

５　災害図上訓練参加者数

開催会場	災害図上訓練
①名古屋会場	52　名
②尾張会場	55　名
③海部会場	52　名
④知多会場	53　名
⑤西三河会場	40　名
⑥東三河会場	35　名
総　計	287　名

III　地域消防・防災論／応急手当実習

（１）講座概要

① 地域消防･防災論

各地域･市町村の防災の現状と課題、消防･予防体制の仕組みを学ぶ

⇒各地域の予防課、防災課の方から、地域の最新情報を聞くことで、防災ﾘｰﾀﾞｰとして何が協力できるのか、またはどんな形で連携を図るのがいいのかを考えてもらいました。

② 応急手当実習

救急蘇生法･止血法･AED などの応急手当実技を学ぶ

⇒10 月から心肺蘇生法の一部が改訂されたこと、最近公共施設に配備されているＡＥＤの使い方を通して技能を学び、防災ﾘｰﾀﾞｰとしても自覚をより強めてもらいました。

（２）開催会場、開催日、担当

開催会場	開催日	担当部署	講師	応急手当実習担当
知多会場	09/30　土	常滑市役所	予防課主幹　山田政晴	常滑市消防署
西三河会場	10/09　月・祝	岡崎市消防署	予防課長　柴田泰文	岡崎市中消防署
東三河会場	10/15　日	田原市役所	防災室長　寺田幸弘	豊橋市中消防署

（３）地域消防・防災論／応急手当実習参加者

開催会場	地域消防･防災論 応急手当実習
知多会場	45　名
西三河会場	48　名
東三河会場	36　名
総　計	129　名

IV　自主防災組織活性化演習

（１）自主防災組織活性化演習の狙い

① 「あいち防災リーダー会」の先輩諸氏から自主防災組織の事例を発表して貰い、受講者が自主防災組織の認識を深めて、活性化のための有効な取り組み方法を模索する。

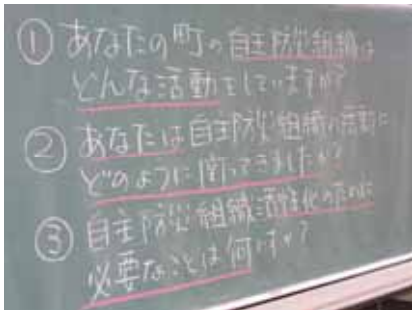
② 「あいち防災リーダー会」の協力を頂くことにより、顔の見える関係づくりの広がりが期待でき、県民防災意識のさらなる向上にも寄与できる

NPO愛知ネット　活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

（２）自主防災組織についてのアンケート

事前の参考資料として「自主防災組織についてのアンケート」を実施、自主防災組織活性化演習の当日受付にて回収。⇒忘れてきた人のために、コピー機を準備する。



〔内容〕

① あなたの地域の自主防災会の主な活動状況は？
② 地域の自主防災会へのあなたの役割は？
③ あなたが、地域の自主防災会の活動に参加した活動は？
④ 地域の自主防災会の良いところは？
⑤ あなたの地域の自主防災会の弱いところは？
⑥ 自主防災会をさらに活性化を図るためのアイデアや工夫を書いてください。

（３）開催会場、開催日、担当

開催会場	開催日	担当 NPO
④知多会場	10/21 土	NPO 愛知ネット
⑤西三河会場	10/29 日	NPO 愛知ネット
⑥東三河会場	11/03 金・祝	NPO 愛知ネット

（４）自主防災組織活性化演習の流れ

10:30～11:30　事例発表
あいち防災リーダー会が選出したリーダーによる地域活動の事例発表
11:30～12:00　質疑応答
12:00～13:00　昼食
13:00～13:10　オリエンテーション
13:10～14:40　グループ別ワークショップ
① 自己紹介と役割分担
② 自分の自主防災活動について話し合う
・あなたの地域の自主防災会はどんな活動をしていますか？
③ 自主防災活動へのかかわりを話し合う
・あなたの自主防災会での役割や参加した活動など
④ 活性化のために必要なこと＝対策･工夫を話し合う
・自主防災会活性化のためのアイデアや工夫は何ですか？
14:40～14:50　休憩
14:40～15:50　グループ別全体発表：グループ内で話し合った内容、課題、対策などを発表
15:50～16:05　ワークショップの講評
16:05～16:20　全体についての質疑応答

(５) 「あいち防災リーダー会」協力者

開催会場	開催日	氏　名
④知多会場	10/21 土	井野辺、岸野　(知多ブロック) 船木、深谷、神野、寺田、木原、中野、安井、陸井、伊藤、神谷、国島、加藤、藤吉、杉浦、小林佐々木、岩橋、竹内、岡田、秋本
⑤西三河会場	10/29 日	太田、板頭　(西三河ブロック) 蜂須賀、久保田、間瀬、石川、杉浦、岡本、鈴木、前田、山下
⑥東三河会場	11/03 金・祝	太田、早川　(東三河ブロック) 伊藤、酒井、尾浦、大桑、森、渡辺 (西三河ブロック) 間瀬、山下

(６) 自主防災組織活性化演習参加者数

開催会場	自主防災組織活性化演習
④知多会場	45 名
⑤西三河会場	44 名
⑥東三河会場	37 名
総　計	126 名

(7) 地域講座を終えて

「あいち防災カレッジ」も今年度で４年目を迎え、多くの地域防災リーダー予定者に参加していただきました。中でもＮＰＯ愛知ネットの担当した地域講座は、参加者自身が地元地域で活躍することを期待されているため、実践的で具体的な手法や事例を紹介してきました。

最初に災害図上訓練（ＤＩＧ）では、広い地域を見ながら、自分の住んでいる地域を見る目を養うこと、たくさんの施設やエリアの特徴を図上に表すことで、課題が明確になることもあること、図上訓練という手法を通して災害に関する話題をつくること、防災に対する関心を高めて深く研究する意識を高揚するなど、そのきっかけを作るために良い方法であり、地域に帰って活用できるしてほしいと思っています。

２番目にボランティア論演習では、災害現場でのボランティアの動き方を学び、どうコーディネートしたらいいのかを学んだり、ボランティア支援センターの立上げ方法と被災者のニーズ対応など、実践に即した演習を行っていただきました。地域のリーダーとしては、こうした知識を持っているかいないかで減災や復興に大きな影響を与えます。

３番目に地域消防・防災論／救急手当実習では、地域の特徴を専門家の立場から教えていただきました。常備の消防ができること・できないこと、本当の災害時にはあまり動けないこと、地域の防災力が頼りにされていること、地域の特徴に即した対応を準備していることなどを話していただきました。また、地域の消防関係者と講座を通じて話ができたことは、今後の連携を図る上でも大切なことだと思います。

４番目に自主防災組織活性化演習では、実際に地域で活動している自主防災組織の実情と組織が抱えている問題・課題を参加者なりに調査し、どう活性化していくかを地域の異なる参加者同士で話し合いました。積極的に活動している地域とあまり活動の進んでいない地域の違いは何か、どうすれば活性化できるか、リーダーとしての役割は何をすることかなどワークショップ形式で議論をすることができました。地域の課題がここで解決できなくても、他地域の事例を参考に取り入れることができるし、必要があれば先進的な取り組みをしている地域に聞くこともできる、そうしたネットワークが大きな力になると期待しています。

また今回は、あいち防災リーダー会の方々に、講座全体の進行とファシリテーションをお願いしスムーズに開催できました。事前の打ち合わせにおいて講座の目的、進め方、流れなどをＮＰＯ愛知ネットと共有しながら進めたことも、大きな成果だったと思います。今後は、あいち防災リーダー会も地域の防災に関し、指導的な立場で活動できるのではと期待しています。

これまでに「あいち防災カレッジ」を卒業された方は１，０００人を超え、各地にリーダーとして活躍できる人材が育成できてきました。こうした人材を地域で活かし、減災・防災のために動ける人として活躍してほしいと願っています。ＮＰＯ愛知ネットも防災を担う団体として地域のリーダーと協力した活動につながっていければと思います。

NPO愛知ネット　活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

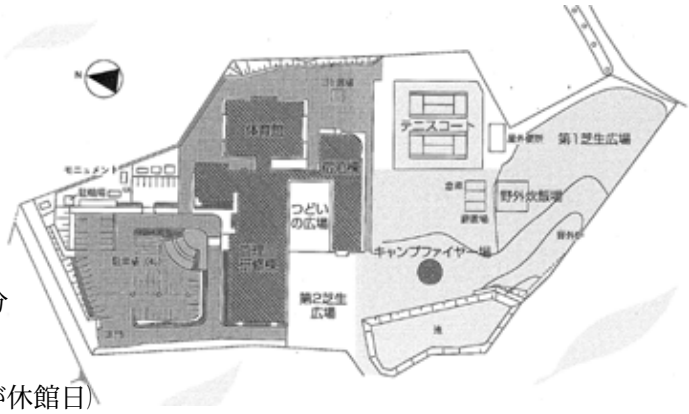
■ 社会教育

Soial education

愛知県青年の家

愛知県下唯一の県立青年の家である当施設は、青少年のみなさんが規律正しい集団宿泊生活をしながら、研修活動、野外教育活動、レクリエーション活動などを通して、協同･友愛･奉仕の精神を養い、よりよい社会人としての資質を身につけるためにつくられた社会教育施設です。

施設概要



場　　所 ： 岡崎市美合町並松 1-2

電　　話 ： (0564) 51-2123

ファクス ： (0564) 51-2027

E-mail ： staff@aichi-yh.jp

URL ： http://aichi-yh.jp/

開館時間 ： 宿泊客無し 8 時 30 分～17 時 30 分

宿泊客有り 8 時 30 分～22 時

休館日 ： 毎週月曜日 (祝日の場合は火曜日が休館日)

主な施設 ：

管理棟･･･第 1 研修室(99 人)、第 2 研修室 (63 人)、
第 3 研修室 (63 人)、
第 4 研修室 (多目的ホール<収納式椅子 192 人>)、
第 5 研修室 (36 人)、第 7 研修室 (18 人)、
ボランティアルーム (12 人)、
情報相談コーナー、保健室、更衣室 2 室、
食堂 (116 人収容可能)

宿泊棟･･･宿泊室 45 室 (洋室 37 室、和室 8 室)
洋室：2 人用 (バストイレ付) 6 室、
2 人用 (バストイレ無) 19 室、
4 人用 4 室、6 人用 8 室
和室：6 人用 6 室、
15 人用 (研修室兼用 2 室)、
第 6 研修室 (葵庵)、
交歓ロビー、浴室･シャワー室 2 室

体育館･･･バスケットボール (1 面)、バレーボール (1 面)、
バトミントン (3 面) など

施 設 の 役 割 と 任 務

(1) 利用申込･受付･許可に関する業務

(2) 館内案内、利用案内、接遇業務
接客対応、電話対応、団体対応（学校行事･一般団体･視察等）、苦情対応等にあたる。

(3) 青年の家利用者ニーズの把握とサービス向上に関する業務

利 用 状 況 ･ 利 用 料 金

宿泊利用者は、平成 18 年 4 月から 1 月分が実績。3 月は見込み

愛知県青年の家

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用料金	4,437,200	2,017,200	2,659,350	3,885,550	5,919,200	2,034,400	2,139,700	1,006,750	2,141,250	2,034,200	1,401,300	4,000,000	33,676,100
指定管理料	3,954,000	3,750,000	3,750,000	3,750,000	3,750,000	3,750,000	3,750,000	3,750,000	3,750,000	3,750,000	3,750,000	3,750,000	45,204,000
イベント収入	0	42,011	41,600	0	0	150,000	40,800	0		36,000			310,411
その他	0				18,260	6,070	170	1,680	1,630	7,620			27,810
収入計	8,391,200	5,809,211	6,450,950	7,635,550	9,669,200	5,784,400	5,889,700	4,756,750	5,891,250	5,784,200	5,151,300	7,750,000	78,880,100
(参考)16年度利用料金	3,806,850	3,342,350	2,351,950	3,032,950	5,739,500	1,745,350	1,378,450	699,500	2,134,250	1,609,150	2,034,050	3,663,700	31,538,050
(参考)17年度利用料金	4,031,650	2,817,900	3,210,100	3,756,850	6,986,350	2,693,200	1,941,100	786,700	1,803,950	1,801,300	1,550,100	3,764,600	35,143,800
16年度比較	630,350	-1,325,150	307,400	852,600	179,700	289,050	761,250	307,250	7,000	425,050	-632,750	336,300	2,138,050
17年度比較	405,550	-800,700	-550,750	128,700	-1,067,150	-658,800	198,600	220,050	337,300	232,900	-148,800	235,400	-1,467,700

宿泊者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
18年宿泊者数	2,473	893	1,327	2,085	3,234	1,000	1,072	347	1,060	954	677	2,100	17,222
16年宿泊者数	1,999	1,749	1,135	1,499	2,936	766	580	266	1,082	681	947	2,162	15,802
17年宿泊者数	2,212	1,196	1,746	2,234	3,461	1,284	752	267	925	854	665	1,965	17,561
16年度比	474	-856	192	586	298	234	492	81	-22	273	-270	-62	1,420
17年度比	261	-303	-419	-149	-227	-284	320	80	135	100	12	135	-339

広 報 活 動

情報発信媒体として「ホームページ」･「青年の家ニュース」を活用しています。 写真を有効利用しレイアウトを統一させ、読みやすい構成に努めています。

（1） ホームページ

・ 利用状況の確認

・ 今後予定として事業参加者募集の告知等

（2） 青年の家ニュース

・ 記事として、利用していただいた団体の研修内容や青少年団によるユースコラムを掲載し、青年の家利用方法など研修向上･よりよく施設を活用していただくための方法を掲載。

・ 愛知県各市教育委員会･青年の家･青少年施設･各報道岡崎支局･ボランティアセンター･大学･専門学校に送付。

NPO愛知ネット　活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

主催事業 <愛知県青年の家地域ふれあい事業>

学校週 5 日制にともなう土曜休日に、青年の家の特性をいかして、自然体験、野外活動、工作活動などの事業を実施し、仲間との交流を図り、親子や地域のふれあいを深める。

第 1 回 「土と遊ぼう！イモ植え体験」 平成 18 年 5 月 20 日（土）

参　加　者：30 人（10 家族）

プログラム：10:10　イモ植え体験

11:00　野外炊飯（ナンとドライカレーづくり・昼食）

13:30　ネイチャーゲーム

第 2 回 「君は今日、麺打ち達人になる！」 平成 18 年 6 月 3 日（土）

参　加　者：52 人（18 家族）

プログラム：10:10 うどんづくり

12:00 うどんパーティー

13:30 グラウンドゴルフ

第 3 回 「火の神とファイア体験！」 平成 18 年 9 月 2 日（土）～3 日(日)

参　加　者：51 人（14 家族）

プログラム：

1 日目　10:10　竹細工づくり・あそび

13:30　火起し器体験・ダッチオーブン料理

19：00　キャンプファイヤー

2 日目　9:00　フライングディスクづくり

13:30　フライングディスクゴルフ

第 4 回 「秋の実りに感激！」 平成 18 年 10 月 21 日（土）

参　加　者：51 人（15 家族）

プログラム：10:10　イモ掘り

12:00　イモ料理づくり

13:30　木の実クラフト

第 5 回 「今日こそ日本の正月気分！」 平成 19 年 1 月 20 （土）

参　加　者：45 人（15 家族）

プログラム：10:10　和凧づくり

11:30　餅つきパーティー

13:30　正月あそび大会

愛知県青年の家　19年度事業計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
19年度利用料金収入	4,400,000	2,700,000	2,400,000	4,000,000	6,000,000	2,400,000
18年度利用料金収入	4,437,200	2,017,200	2,659,350	3,885,550	5,919,200	2,034,400
昨年度比	-37,200	682,800	-259,350	114,450	80,800	365,600
19年度宿泊者数	2,400	1,400	1,200	2,200	3,000	1,200
18年度宿泊者数	2,473	893	1,327	2,085	3,234	1,000
昨年度比	-73	507	-127	115	-234	200
主な施策と事業	リピーターの確保 新規利用者 西尾信用金庫 デンソー 楽習塾の開校 シニア塾の開校 自然とのふれあい ハイキング	リピーターの確保 新規利用者 アハマディヤユース 豊川親子合唱団 トランペット未来塾 ふれあい事業 やっぱり飛びたい シニア塾 小旅行 お茶教室	養護学校（リピーター ふれあい事業 やっぱりうどんが好き 新規利用者の開拓 東京教育財団 部活動合宿の誘致 デンソー環境フェアー 楽習塾 早寝早起き 科学教室 シニア塾 健康教室	リピーターの確保 新規利用者 名電吹奏楽 桜ヶ丘高音楽部 ミックスジャム 前半新規利用者開拓 お茶教室	リピーターの確保 新規利用者 チームゴン 音羽剣道教室 楽習塾 手づくり絵本 科学教室	リピーターの確保 新規利用者 日本スクウェア ダンス QCサークル ふれあい事業 やっぱり炎はすごい 新規利用者の開拓 企業講座 お茶教室 主催講座

愛知県青年の家　19年度事業計画

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19年度利用料金収入	2,400,000	1,800,000	2,400,000	2,000,000	1,400,000	3,500,000	35,400,000
18年度利用料金収入	2,139,700	1,006,750	2,141,250	2,000,000	1,400,000	3,500,000	33,140,600
昨年度比	260,300	793,250	258,750	0	0	0	2,259,400
19年度宿泊者数	1,200	900	1,200	1,000	700	2,100	18,500
18年度宿泊者数	1,072	347	1,060	954	677	2,100	17,222
昨年度比	128	553	140	46	23	0	1,278
主な施策と事業	リピーター確保 アイセック･ﾊｬﾊﾟﾝ 大会無 ふれあい事業 やっぱり食欲の秋 新規利用者の開拓 シニア塾 楽習塾 子育て講座	新規利用者の開拓 新規利用者 手づくり絵本全国大会 QCサークル 主催事業 ちょこっと活動体験 シニア塾 ハイキング お茶教室 企業講座	リピーターの確保 自主事業の開催 剣道合宿 シニアいきいき講座	リピーターの確保 ふれあい事業 やっぱり正月遊び 主催事業 NPO新年交歓会	主催事業 グループビルディング入門 自主事業 シニアいきいき講座 楽習熟 企業講座	リピーター確保 主催事業 ユースフォーラム	

NPO愛知ネット　活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

■ 市民活動団体サポート

NPO support

昨年度まで進めてきたボランティアや市民活動を支援するセンターの管理運営を中心とする事業を引き続き実施していきます。今後は地域内分権がより進むことが予測されるため、それぞれの行政区域の特性を活かす事業が求められています。指定管理者による施設の運営とあわせて、ボランティア及び市民活動の促進を目的に、ＮＰＯとしての特性やノウハウを活かした事業をさらに展開していきたいと考えます。

刈谷市民ボランティア活動支援センター

センターの概要

センター外観

場　　所：刈谷市寿町 1-409

電　　話：0566-62-8231

ファクス：0566-62-8232

E-mail：kcv109box@katch.ne.jp

URL：http://www.katch.ne.jp/~kcv109box/

開館時間：10 時～21 時　但し、日曜日 10 時～17 時

休 館 日：毎週月曜日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

主な施設：交流スペース、談話スペース、作業スペース、情報スペース、メールボックス、ロッカー、障がい者用トイレ、駐車場

使用料金：コピー機使用は実費負担、印刷機は無料。但し用紙は利用者が持参。（施設、ロッカー、その他機材使用は無料）

談話スペース：登録団体が打ち合わせの場として利用。（18 席／18 席　36 席で利用することも可能）

ロッカー：活動に必要な備品などを保管する場所として利用。（ロッカー数は、27 個）

メールボックス：各団体間の連絡、文書・チラシの配布や団体宛の郵便物、ファックスの一時保管場所として利用。（メールボックスの数は、36 個）

作業スペース：印刷機、紙折機、製本機、丁合機、裁断機、紙そろえ機、ラミネーターを設置。

＊ 紙揃え機は今年より設置。

＊ 貸出備品：プロジェクター、ノートパソコン、スタッフコート（10 着）、クリスマスツリー（2 セット）、サンタクロースの衣装、スポットライト、バルーンアート空気入れ（5 本）、ビンゴマシーン。

Ⅰ.センターの役割と任務

1. 委託業務名･目的

(1) **業　務　名**　：　刈谷市民ボランティア活動支援センター管理運営委託

(2) **事業の目的**　：　様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する。

(3) **実 施 期 間**　：　平成18年4月1日～平成19年3月31日
(指定管理＝平成22年3月31日まで)

2. 刈谷市民ボランティア活動支援センターの任務

(1) **情報の収集･提供業務**

①「かりや市民ボランティア活動情報サイト」(ボランティア情報サイト)の管理運営、登録団体の入力作業、イベント情報･ボランティア募集などのコーディネート業務、サイト利用操作説明など。

②刈谷市民ボランティア活動支援センターのＨＰ作成及び維持管理。

③メールマガジン及び情報誌(ぼらっち。)等の発行

(2) **活動場所の提供業務**

①談話室の予約受付、貸出し等利用申し込みへの対応

②印刷機器等設備の利用に関する事務

(3) **意識啓発･普及業務**

①意識啓発活動の実施(業務全体を通じて)

②啓発チラシパンフレット等の作成

(4) **人材育成･交流業務**

①人材育成のための研修会を企画･運営(スキルアップ講座等)

②市民ボランティア活動団体の交流機会を増加するネットワーク構築
(ＮＰＯ･ボランティア活動に精通した講師をお呼びし、車座集会を開催)

(5) **相談･連絡調整業務**

①市民ボランティア活動に関する市民からの相談窓口としての機能(マッチング活動)
②ＮＰＯ法人認証取得のための相談への対応

3. 登録団体へのサービス業務

本年度から指定管理者への移行に伴い、次のサービスを行うことにした。

(1) **用紙の原価斡旋(販売)**

(2) **備品(寄付してもらったもの)の貸出し**

スタッフコート、プロジェクター、ノートパソコン、クリスマスツリー(2本)、サンタクロースの衣装、バルーンアートの空気入れ(5本)、スポットライト、ビンゴマシン

NPO愛知ネット　活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

Ⅱ.18 年度の実施結果（実施の効果等）

1. センターの利用実績(平成 18 年度見込み)

(1) 登録団体

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	前年比
登録団体数	130 団体	179 団体	208 団体	228 団体	110%

18 年度は 220 団体を目標に啓発活動を行ってきた。結果は 228 団体（前年比 110%）で目標を達成することができた。また新たに登録された団体の中には、センターが働きかけた「それいゆ」や「将棋サークル」「あんくら夢ネット」など地域の市民活動団体及びＮＰＯ法人など幅広い分野の登録があった。

(2) 個人登録者

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	前年比
登録者数	7 人	33 人	62 人	100 人	161%

イベント時には大勢のボランティアさんが必要であるが、そのニーズをマッチングするのに、個人登録への積極的な働きかけをしてきた。今後も団塊の世代の方の登録を促していきたい。

(3) センターの利用者　（平成 15 年度は開設期間が半年のため 2 倍してある）

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	前年比
総 来 館 者	5098 名	6260 名	6917 名	8200 名	118%
談　話　室	2134	2965	2935	4100	140
相　　談	502	503	606	630	104
印　　刷	630	1248	1503	1510	101
そ　の　他	1832	1544	1873	1960	105

総来館者数は、前年比 118%の伸びで、特に下期には談話スペースが広がり（18 名⇒36 名）談話室利用者は 140%と大幅な伸びとなった。

(4) 市外からの視察状況

市外から視察に訪れたのは、約 100 名（前年 216 名）、件数は、21 件（前年 27 件）.県下にセンターが増えたせいもあり前年より減ったものの、東は座間市、西は四国の坂出市など遠方からの視察もあった。視察者は市役所および議員の方が多かった。公設民営のセンターであることやボランティア情報サイトに関心をもたれた方が多かった。

2. 事業の特質（工夫した点など）⇒相談機能の充実

(1) 相談実績

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	前年比
相談件数	220 件	472 件	530 件	112%
マッチング件数	50 件	54 件	55 件	102%

相談件数は着々と伸び、市民からも頼りにされつつある。
相談の応対はセンター最重要機能と位置づけ、相談来館者には、親身になった応対をしている。ボランティアマッチング活動は、センターの特質とも言える。

(2) ボランティアマッチング活動

・ボランティアマッチング活動とは、ボランティアをしたい人とボランティアさんを探している人を懇切丁寧な対応でマッチング（縁結び）する作業のことであり、このセンターのメイン・ミッションである。

・ボランティア情報サイトに蓄積されている個人ボランティア情報やスタッフの人脈等を駆使し、マッチング作業を行った。

・一層、活発にするには、ボランティアの受け皿と個人登録ボランティア(人材バンク)の掘り起こしをしていく必要性がある。参考までに代表的なマッチング実績を掲載する。

ボランティアマッチング事例

日　時	対　象	要　望	実　施　結　果
4 月 11 日	個人 （障がい者）	・パソコンが調子悪くなった、直してくれるボランティアさんを探して欲しい。	・個人登録でパソコンが得意の方を紹介した。
4 月 12 日	Daichi	・民間放送の「じゃんじゃんＰＲ」の出演団体を紹介して欲しい。	・毎月、1 団体を紹介している。
7 月 18 日	ひかりワークス風鈴	・看板の足を作ってくれるボランティさんを探して欲しい。	・個人登録の方を探し、スタッフも手伝い、安価な足を作った。
7 月 27 日	ＮＰＯ かた～ら	・明後日の万燈まつりのカキ氷のボランティアさん 2 名が欲しい。	・サイトの掲載するとともに、スタッフのネットワークで探し、紹介した。
11 月 9 日	ふれあい広場 幸	・生ゴミの処理に困っている、良い方法はないか。	・不要になっている方の生ゴミ処理機を使ってもらうことになった。
2 月 2 日	ひだまり	・節分行事の「鬼と福の神」をしてくれるボランティアさんを探している。	・情報サイトに掲載してもらうと共に、個人登録者に声を掛けて探し、紹介した。

3. 各種講座の開催

(1) 車座集会（年間 4 回開催）

ボランティア活動に造詣の深い方々をゲストとして招待し、刈谷でボランティア活動、市民活動をされている皆さんといっしょに、車座になって討論する会を行った。それぞれテーマを選び、お茶を飲みながら気楽で、活発な会であった。
お呼びする講師は、どなたも、ボランティア・ＮＰＯ活動に精通した方たちばかりを厳選した。面白く、今後の活動のためになる話を各講師にお願いした。各会とも、ほぼ定員（20 名）一杯の人数を集客し、盛況な会となった。団体間のネットワーク作りに大きく寄与した。

第 16 回　伊藤壽美恵さんをお迎えして

第 18 回　天野代表を囲んで

① 第 16 回 「障がいのある子もない子も通う保育園『ひかりの家』への想い」

平成 18 年 5 月 27 日（土）　18 時 00 分～19 時 30 分　参加者：20 名

ゲスト：社会福祉法人ひかりの家　名誉園長　伊藤壽美恵氏

② 第 17 回 「暮らしの小さなお手伝い～もやいの輪、和～」

平成 18 年 7 月 15 日（土）　18 時 00 分～19 時 30 分　参加者：16 名

ゲスト：特定非営利活動法人もやい　代表　安井洋子氏

③ 第 18 回 「NPO法人の運営の秘訣と協働の秘訣」

平成 18 年 9 月 30 日（土） 18 時 00 分～19 時 30 分　参加者：35 名

ゲスト：特定非営利活動法人NPO愛知ネット　代表　天野竹行氏

④ 第 19 回 「退職後のシニアライフ」

平成 18 年 11 月 11 日（土） 18 時 00 分～19 時 30 分　参加者：29 名

ゲスト：特定非営利活動法人ドリーム　理事　吉田径氏

(2) スキルアップ講座

① 第 11 回 「初心者向け！ボランティアって何だろう？聞いてみよう！」

平成 18 年 5 月 13 日（土） 10 時 30 分～12 時 00 分　参加者：11 名

講師：久保田好明さん（デンソーハートフルクラブ）

・団塊の世代向け「生きがい発見講座」の締めくくりとして行った。
・講師は企業人ボランティア、活動歴 15 年の久保田好明さんにお願いして、司会者とのインタビュー方式をとった。
・内容は、活動をはじめたきっかけ、ボランティアを行う楽しさ、お勧めの活動など聞いた。
・今回の連続講座で 4 人の方が個人会員になられた。

② 第 12 回 「親子で一緒に！　廃材を使ったエコ時計を作ってみよう！」

平成 18 年 8 月 2 日（土） 10 時 00 分～12 時 00 分　参加者:29 名

講師：清水敏和さん（おもちゃのお医者さん）

・親子の絆を確かめあい、物作りの楽しさを知ってもらうために開催した。
・講師には「おもちゃのお医者さん」としても活動している清水敏和さん（半田市在住）をお迎えして、10 組、総勢 29 人の親子が時計づくりを楽しんだ。材料はリサイクル品を利用。文字盤にマカロニやビーズ、どんぐりなどを使い、子どもらしいのびやかな発想で、個性豊かな世界で一つしかない、時計が見事にできあがった。

③ 第 13 回 「しめ縄を一緒に作りませんか！」

平成 18 年 12 月 5 日（水） 13 時 00 分～15 時 00 分　参加者：19 名

講師：西村あき子さん（ふれあい広場幸）、

前田ゆきひろさん（ぼらっち。応援団）

・自分の作った「しめ縄」で新年を迎えてもらおうとふれあい広場「幸」から西村あき子さんを講師に迎え開催。
このイベントは平成 16 年からはじめ今回は 3 回目。
・今年も多くの方に参加いただき、皆で楽しく盛り上がりながら、「しめ縄づくり」に取り組んだ。
参加者の玄関・神棚は世界で一つしかない「しめ縄」で新年を迎えられた。

④　臨時企画　「ティシュペーパークラフトを作ってみませんか」

平成 18 年 12 月 9 日（水）　13 時 30 分～15 時 30 分　　参加者:11 名

講師：石井喜勝さん（個人会員）

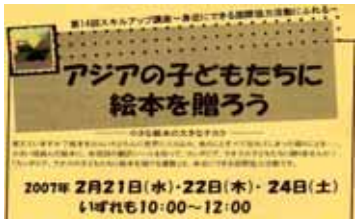
・センター個人会員であり、市民館やＮＰＯ法人かた～らの喫茶スペースで、ティッシュペーパークラフトを教えている石井喜勝さん。石井さんの嬉しい申し出により、センターでティッシュペーパークラフト講座を初開催した。臨時の企画にも関わらず、11 名の方に参加いただいた。
・身近なもので、手軽にできるクラフトということで、「また教えてほしい」との声が多く聞かれた。

⑤　14 回　「アジアのこどもたちに絵本を贈ろう」

平成 19 年 2 月 21 日（木）・22 日（金）・24 日（土）

10 時 00 分～12 時 00 分　参加者:24 名

講師：センタースタッフ



・身近にできる国際交流活動として、絵本を作って途上国に贈る活動の一環である。
・参加者は気に入った絵本を選び、スタッフがまとめて購入、センターで現地の言葉のシールを貼り付ける作業をした。
・「絵本を届ける運動本部」経由で現地の子どもさんに届きます。

(3) 地域でひろう！楽しみの種 2006　連続講座

①　第１回　「豆腐を作ろう！料理を楽しもう！」

平成 18 年 11 月 25 日（土）　9 時 30 分～13 時 15 分　参加者：26 名

講師：石川　伸さん（㈱おとうふ工房いしかわ　社長）

・団塊の世代の方も気楽に参加できる料理教室を開催。
・大豆から豆腐を作り、おからを主材料とした、健康食を料理して、みんなで会食した。
・料理の途中及び会食時には、石川社長から、「美味しい豆腐作りのコツや信念また豆腐作り＝人（社員）作り」など、大変有意義なお話を聞くことができた。

②　第２回　「出会いをチカラに、夢をカタチに！」

平成 18 年 11 月 25 日（土）　13 時 30 分～15 時 30 分　　参加者：37 名

講師：川口孝嗣さん（市役所児童課課長）

・「出会いをチカラに、夢をカタチに」という演題で、社会教育リーダーの一員として、刈谷のボランティア活動を率いてきた川口孝嗣さんに講話をしていただいた。
・自分の人生をライフラインに描くことを提案し、実習では参加者全員が自らのライフラインを作成。「自分の人生、生き方を省みる良い機会であった」など大変好評であった。

NPO愛知ネット　活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

4. 情報の発信

(1) 情報誌「ぼらっち。」(年 4 回発行)

紙媒体を使ってのボランティア情報の発信も行った。情報誌「ぼらっち。」を年に 4 回発行した。

特集は毎回、それぞれの分野で輝いている人に登場いただきインタビュー。また今年から「ぼらっちくんのボランタビュー」を追加した。はじめ (2006 年夏号) は市役所児童課の川口たかしさんであった。

特集のテーマとゲスト

	特集テーマ	特集ゲスト
2006 年春号	「いよいよ 2007 年のチャンス到来！地域とＮＰＯが求める団塊世代のパワー」	平井一巳さん 竹内義信さん
2006 年夏号	「祭りから始まる「人づくり」「ふるさとづくり」～まちの活力を生み出す万燈祭～」	坂野由昌さん
2006 年秋号	「総合型地域スポーツクラブが刈谷で動き出した！」	加藤友康さん
2007 年新年号	「日々を生きる！－チャレンジという種を蒔けば、才能という花が咲く－」	高林美香さん

ぼらっちくんのボランタビュー

	ゲスト	ぼらっちくん (聞き手)
2006 年夏号	川口たかしさん	牧野清光
2006 年秋号	鈴木小枝さん	田中利昌
2007 年新年号	荒木康亜さん	米山裕美

(2) メルマが配信 (年 12 回配信)

センターが発行するメールマガジンは、刈谷市内のボランティア･市民活動の最新ニュースを中心に、センターのイベント情報、センターの出来事、ボランティアにまつわるコラムなどの情報を提供した。また、送信したメルマガをホームページにアップデートし、ＨＰ上でもメルマガのバックナンバーを閲覧できるようになっている。

5. ボランティア情報サイト活用

ボランティア募集団体が自宅から掲載でき、また参加する市民も自宅から応募できる、大変便利なインターネットでのボランティア情報サイトであり、その活用の浸透を図ってきた。

	17年4月～11月	18年4月～11月	前年比
ボランティア応募人員	45件	109件	242%
イベント応募人員	36件	49件	136%
ギャラリー掲載団体	70団体	77団体	110%

他センターに比較すると利用度は高いが、一層の利用拡大が課題である。

6. センタースタッフによる感謝祭

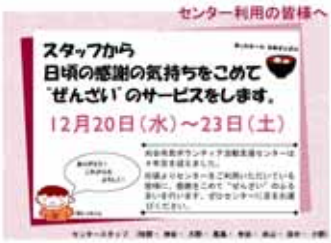
(1) やきいも大会（NPO法人くるくるさんをご招待）

・11月18日（土）（10時00分～12時00分）

・センター横の空き地にさつまいもの苗をさした。

・くるくるの利用者さんたちと一緒に収穫し、焼き芋やふかし芋にして食べていただきました。

(2) 感謝祭



・期間：2006年12月20日（水）～23日(土)

・サービス：ぜんざいのふるまい

・ボランティア協力者：9人

・参加者：期間218人、日当り55人

・センターも設立し、3年が経過した。そして当初の立ち上げ目標は達成できたと思う。それもこれも、市民の方のご協力があったからと感謝・・・・。

・そこでスタッフ全員が心をこめて、ぜんざいで感謝祭を行った。ぜんざいは、スタッフがふるまい、お手伝いに大勢のボランティアさんが参加してくれた。

また漬物などを提供してくださった市民の方も見えた。感謝するほうが感謝されたり・・・！！

Ⅲ. 18年度のまとめ

1． 指定管理者制度のスムーズな移行と小回りを効かせた一層のサービス向上を図ることができた。

2． 情報発信については、ボランティア情報サイトの浸透に向け、また情報誌（ぼらっち。）については「ぼらっちくんのボランタビュー」を追加し充実を図ってきた。

3． 講座などの開催は、当初計画（6回）を上回る11回開催し、それぞれ好評であった。

4． 数値目標は「10%向上を合い言葉！」にしてきた結果、殆どの指標が目標を上回ることになった。

5． 総合評価として、スタッフによる感謝祭が大成功したことである。

Ⅳ. 19 年度の課題

1. センター機能の充実

時代の変化･社会の課題を先取りした運営で、市民に愛され･頼りにされる中間支援センターに挑戦！

(1) 継続課題の推進

① ボランティア情報サイトの更なる利用拡大（情報の速報性）とコーディネーターの手腕を発揮しマッチング活動の推進。登録団体に対して、根気よく操作説明や利用価値の周知を図っていく。特に事務局には、情報掲載、ギャラリー作成について浸透を図る。また旭化成と協働し、一層使い易いサイトに改善していく。

② 来館者･登録団体数などの数値目標については、10％向上を目標に推進する。特に個人登録については、積極的にアプローチしていく必要がある。これからは、学生中心の若年層、団塊の世代の男性の力をボランティア活動等に生かしていくことが必要不可欠であり、個人登録（人材バンク）も積極的に進める。

③ 各種講座については、時代の変化･課題を先取りしたものにする。（･団塊の世代、温暖化、子育て、精神、防災････）

(2) 新規重点施策

① 企業、行政、NPOの連携強化･協働支援
従来は個人と団体とのマッチングが多かったが、今後は団体間マッチングについて対応できるようにレベルアップする。（初年度は、事例集作成、NPO団体の交流）

② 効果的対応のため、センター間のネットワーク化の構築をすすめる。

③ 他市町村のセンター（中間支援団体）支援ができるようにする。

2. スタッフのスキルアップ

(1) マニュアル化

今までのノウハウをマニュアル化し、NPO愛知ネットの財産として積み上げる。

(2) 自己啓発

業務遂行のため、スタッフの自己啓発が不可欠であるので、自己啓発し易い環境を整備する。

内容

- NPO、企業、行政間の協働。
- 平常時のコーディネーター能力の向上。
- 災害時のコーディネーター能力の向上。

方法

- NPO愛知ネットの集合教育。
- センター内の集合教育（ミーティングでの輪講、集合教育）。
- 他団体で行う、研修に個人参加できる環境。

安城市民活動センター（愛称：わくわくセンター）

センターの概要

場　　所：安城市大山町１－７－１
電　　話：0566－7１－0601
フ ァ ク ス：0566－71－0668
Ｅ－ ｍａｉｌ：center@katch.ne.jp
Ｕ　Ｒ　Ｌ：http：//www.katch.ne.jp/~center/
開 館 時 間：９時～２１時
休　　館：毎週月曜日　但し、月曜日が祝日の場合は直後の休みでないが休館。
　　年末年始（１２月２８日～１月４日）
主 な 施 設：交流スペース、作業スペース、情報スペース、ロッカー、障がい者トイレ、駐車場
使 用 料 金：コピー料金は実費負担。印刷機は無料。但し用紙は利用者が持参。その他の施設は無料。
交流スペース：登録団体が打合せの場として利用。テーブル２セット、各椅子６脚
作業スペース：印刷機・紙折機・裁断機・丁合機・製本機・電動ホチキス・ラミネータを設置
情報スペース：インターネット接続のパソコン・カラープリンター・ちらしラックを設置
ロ ッ カ ー：活動に必要な備品などを保管する場所として利用。（ロッカー数は３６個）
貸 出 し 備 品：プロジェクター、スクリーン、ノートパソコン２台
そ　の　他：コピー機

NPO愛知ネット　活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

Ⅰ．センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（1）業　　務　　名：安城市民活動センター管理運営委託

（2）事 業 の 目 的：様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する。

（3）実　施　期　間：平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日

２．市民活動センター（愛称：わくわくセンター）の任務

（1）情報の収集・提供業務

①安城市民活動情報サイト：「あんじょう市民活動情報サイト」の管理運営、登録団体の入力作業、イベント情報・ボランティア募集等のコーディネート業務、情報サイト利用操作説明など。

②わくわくセンターのＨＰ作成及び維持管理。

③メールマガジン、ぼらりん（情報誌）等の発行。

④各種団体の情報を掲示。

⑤メディア（新聞・安城ホームニュースわくわくだより等）への情報掲載。

（2）活動場所の提供業務

①ミーティングルームの予約受付、貸出し機材等の利用申し込み対応

②印刷機、紙折機、丁合機、製本機、電動ホチキス等の作業設備利用に関する、受付と管理

③インターネット接続パソコンの利用申し込み対応

④市民活動運営に関わる、問題、課題の相談受付対応

⑤ロッカー貸出し利用、給湯室利用、湯のみ、コーヒカップ貸出し等の対応

（3）意識啓発・普及業務

①情報サイトの説明会、施設めぐり視察者等の対応

②社会福祉協議会、生涯学習課との連携

③市内公民館へのＰＲ

（4）人材育成・交流業務

①スキルアップ講座、わくわくミニ講座等の人材育成に関する研修会の企画・運営

②ＮＰＯ・市民ボランティア活動に関わるゲストをお呼びし、サロン・交流機会のネットワークづくり

（5）相談・連絡調整業務

①ボランティア、まちづくり等の市民活動の相談窓口として対応し、各種マッチング活動の実施

②ＮＰＯ法人認定取得のための相談対応

Ⅱ．１８年度の実施結果

１．センターの利用実績　（平成１６年１月５日　安城市民活動センター設立、運営）

（１）登録団体（平成１６年度は平成１７年１～３月の実績、平成１８年度はH19年２月現在の数）

	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度
登録団体数	５４団体	１１４団体	５２団体

※１８年度は２００団体を目標に活動を展開、結果２２０団体と目標に対して１１０％の成果を得た。

（２）個人登録　＊平成１８年度はH19年２月現在の数

	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度
登録者数	１０人	１４人	２１人

※ボランティア要請に応えるには、多くの個人ボランティアさんが必要その確保が各種のニーズに応えることができる。（登録数、前年比１５０％）今後も積極的に個人登録へ呼びかけを行ってゆく。

（３）センターの利用者　＊平成１８年度は見込み数

	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度
来館者数	１，０５７名	４，３１８名	４，９９１名
会議人員数	２４５名	９１２名	９４１名
相談者数	１０３名	３２５名	４７１名
印刷作業人数	１５１名	８９４名	１，３７９名
その他来館者数	５５８名	２，１８７名	２，２００名

※１平成１７年3月3日　１６：１５　10，０００人来場達成！

※２来館者数は前年比１１６％の伸び、主な要因は印刷作業者数の増加にある。

２．相談機能の向上

（１）相談・マッチング実績　＊平成１８年度はH１９年２月までの実績数

	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度
相談件数	８６名	１７２名	３８４名
マッチング件数	１件	１２件	５５件

※個人登録者増に比例して、マッチング件数も増加し、成果を得ている。
安城市民活動センターの評価尺度の一つと考え、親身な相談対応が更なる幅広いマッチング活動に結びついてゆく。

（２）マッチング活動

安城市民活動センターの重要な役割がマッチングである。ボランティアを含めた各種の依頼に対して、提供側の登録団体、個人に対応し縁結びを行うことである。これにはボランティア情報サイトに蓄積されている個人ボラ情報、スタッフの人脈を駆使して、最善のマッチングに結び付けるよう努めた。以下に代表マッチング実績を掲載。

マッチング事例

2006/4/16	ひまわり会	七夕会で、ダンスを一緒に踊ってくれる団体 or 個人を探している	グループを紹介したところ、会場準備から後片付けまで一緒に参加してくれるとのことになった。
2006/5/10	安城まちの学校	小学校で国際理解＆子ども英語を教えてくれる人を探している。	英語講師＆国際理解について活動して見える個人を紹介
2006/6/14	連合町内会	敬老会を予定しており、目玉の出し物を考えている	「音楽クラブ」代表さんと連絡を取り、了承を得る。当日は盛り上がったとのこと。
2006/7/12	介護施設	安城七夕まつりの短冊ロードに参加したい。	ＪＣの短冊ロード担当者に問合せ。協議後了承を得た後、担当者を紹介。
2006/8/26	障がい者支援団体	ローゼルを知ってもらいたい、イベントなどで、紹介させて欲しい	スキルアップ講座の昼食時、ローゼルの試飲、支援施設とローゼルについて紹介をする場を設けた。
2006/9/21	中学生の体験活動	総合学習で要約筆記を体験し、まとめたい。	「要約筆記団体」の代表に問合せ、体験の了承を得て連絡。体験の実現
2006/10/4	保育園父母の会	１２月の行事で、音楽関係の行事をしたい。	公民館で活動している「音楽グループ」を紹介。１月にも開催してもらえた。
2006/11/12	個人の退職者	辞めた後。子ども託児ボランティアをやりたい。	保健センターの乳幼児見守りボランティアを紹介。保健センターに行くことになる。
2007/2/15	中国人の母親	中国の小学３年生の娘が日本の小学校へ通う。言葉が分らない、学校ボラを探したい。	支援団体、代表を紹介、小学校の現状についていてなど、お話を伺う。教科書も渡り、来日を待つようになった。

３．各種講座の開催

(１)スキルアップ講座の開催　（年４回の開催）

市民活動団体として、身に付けておきたいスキルやノウハウを専門家から直接、指導やアドバイスを受ける機会をつくる。

① 第６回「発想を変えよう！　事業のステップアップ～助成金獲得まで」

平成 18 年 5 月 26 日(金)19 時 30 分～20 時 30 分　参加者：30 名

講師：NPO 愛知ネット　舟橋正浩氏

② 第７回「ゆ～ら」公式審判講習

平成 18 年 8 月 26 日(土)　10 時 00 分～15 時 00 分　参加：12 名

講師　：愛知産業大学　助教授　大野幾生氏

第６回　助成金獲得講座

第７回　「ゆ～ら」公式審判講習

③ 第８回「想いが伝わる話し方　ラジオブースから情報を届けるプロに学ぶ！」

平成 18 年 12 月 2 日(土)　19 時 00 分～20 時：30 分 参加：43 名

講師：PitchFM　DJ　野田 ゆきさん

第８回　想いが伝わる話し方

④ 第９回 市民活動に活かすための手づくり講座

「古布でつくる！　簡単裂き織り」

平成 19 年 1 月 25 日（木）　10 時 00 分～12 時 00 分 参加：23 名

講師：濱崎 泰子さん

第９回　古布でつくる　簡単裂き織り

(２)わくわくサロン　（年６回開催）

ＮＰＯやボランティア、市民活動に関わっている方々をゲストに呼んで、いろいろな体験談や活動についてお話をして頂き、自己の団体の運営のヒントにしてもらう。特にいろいろな分野の第一線で活躍する方と直接議論したり質問を投げかけたりと交流を図ることで、多くの人と人間関係をつくる機会でもある。

①第８回　市民がつくる祭りの魅力

～市民参加の祭り企画と協働によるイベント運営～

平成 18 年 4 月 7 日(金)　19 時 00 分～20 時 30 分　参加者 15 名

ゲスト：にっぽんど真ん中祭り組織委員会　専務理事　水野孝一氏

にっぽんど真ん中まつりは参加型の新しいスタイルの祭りだ。略称：どまつりは学生が中心となって産声をあげた。水野さん大学在学中の中で市民が参加し、協働で祭りを運営するまでの道のりは決して平坦でなかった。

②第９回　福祉を軸とした地域再生

～“生きる・暮らす・働く”場所をつくる～

平成 18 年 6 月 10 日(土)　18 時 00 分～19 時 30 分　参加者 14 名

ゲスト：地域福祉サポートちた　今井友乃さん、岡本一美さん

地域福祉サポートちたのお二人をゲストにむかえ、地元に密着した地域福祉支援活動の想いを聞いた。お二人のバイタリティーは「人を好きになる」「ほれることです」さすがでした。

NPO愛知ネット　活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

③第 10 回　ごみゼロ！リサイクル１００％

～企業から学ぶ　環境術～

平成 18 年 9 月 18 日(月) 13 時 00 分～16 時 00 分 参加者 16 名

出前サロン：㈱デンソー安城製作所　工場見学

ロボット同士が助け合う、ロボットラインの見学で驚異を感じ、環境の取り組みでは分別、リサイクルの徹底、水質は各種の処理、更には排気も無駄にせず風力発電と徹底したリサイクル活動を目のあたりにした。

④ 第 11 回　市民活動とメディア！

～取材ノートから見た安城～

平成 19 年 1 月 20 日(土) 19 時 00 分～20 時 30 分 参加者 33 名

ゲスト：安城ホームニュース編集長　金ｐ井紀道氏

「市民活動とメディア～取材ノートからみた安城～」とくれば、近親感と興味がわいてきて、サロン開催前からすでに盛り上がりをみせていた。

⑤ 第 12 回　障がい者自立への想い

～福祉の現場に一石を投じる！～

平成 19 年 2 月 24 日(土)18 時 30 分～20 時 00 分 参加者 32 名

ゲスト：ＮＰＯ法人パンドラの会　代表　岡部富美子さん

この事業は非常に楽しい、好きです。大好きです。」、「みんなの笑顔がたまらない」と岡部さん。心の中が透けて見えてきそうでした。

⑥ 第 13 回　恐怖！あのスマトラ沖地震の現実

～その時私はピピ島にいた～

平成 19 年 3 月 17 日(土)　19 時 00 分～20 時 30 分

ゲスト：自動車部品製造　会社員　神谷和春氏

一瞬の判断が全員の生還となった。
腰まで浸かっていた、水位が一瞬のうちに足元まで引き、魚が飛び跳ねた。異常⇒避難⇒生還

４．情報の発信

（１)情報紙「ぼらりん」　（年４回発行）

電子情報による情報発信でなく、紙媒体を使ってのボランティア情報の発信も行った。情報紙「ぼらりん」は年４回（春号、夏号、秋号、冬号）発行をした。毎回特集を各分野で活躍されている人をインタビューして掲載をした。また、ぼらびとリレインタビューは、活躍している団体代表や面白い発想のイベントを展開している方をインタビューし、それを受けた方が、次々と新しいぼらびとを紹介してゆくユニークな取材も行って、多くの人に関心を持ってもらうような情報も提供している。

特集のテーマとゲスト

	特集テーマ	特集ゲスト
２００６年春号	人と人をつなげて 20 年 安城市ボランティア連絡協議会の活動への想い	安城市ボランティア連絡協議会 会長　太田　克子さん
２００６年夏号	「ともに歩む、自分らしく生きる」とは？ ～安城の男女共同参画事情～	「さんかく 21・安城」会長 小鹿　登美さん
２００６年秋号	「地域で動く、地域で守る、子どもの安全・安心」 ～安全編」～	安城市役所　市民安全課　主幹 鈴木　雅之さん
２００７年冬号	「地域で動く、地域で守る！子どもの安全・安心」 ～安心編～	事例特集　・御幸町内会　・ふれあい「えのき」　・桜林小学校の事例

ぼらびとリレインタビュー

	ゲスト	インタビュアー
２００６年春号	安城市生涯学習まちづくり企画人 草苅　玲子さん	NPO 法人　森を再生する会 代表　神谷　輝幸さん
２００６年夏号	自宅開放型ふれあいサロンかんらんしゃハウス 代表　　棚田　檀さん	安城市生涯学習まちづくり企画人 草苅　玲子さん
２００６年秋号	ガボラの会、わかばの会 代表　山崎　瑞穂さん	自宅開放型ふれあいサロンかんらんしゃハウス 代表　　棚田　檀さん
２００７年冬号	要約筆記サークルなしばた 代表　田所　千代子さん	ガボラの会、わかばの会 代表　山崎　瑞穂さん

（２）メールマガジンの配信

センターが発行するメールマガジンは市民活動センターの最新ニュースを中心に、イベント情報、センターの出来事、ボランティア活動に関わる助成金情報等を各月初に配信している。ホームページにもアップデートしメールマガジンのバックナンバーを閲覧できるようになっている。

５.安城市民活動センターの出来事

（1）開設からの来館者、１万人達成を祝う記念行事実施。

平成 19 年 3 月 3 日 16 時 15 分、親子の来場で達成！記念品として、カトレアの鉢植え、防災グッツの手渡し記念撮影。

・10,001 人目、10,002 人目は、カトレアの鉢植えの記念品を贈呈。

・10,020 人目まで記念品が手渡された。

親子で来館！記念品ゲット

（２）登録団体、個人ボラの人たちからの提供品展示。

提供された作品をセンター内に展示コーナを設け、来館された人々に見てもらう。

安城安心
かるたの展示

作品の展示が終えたもので、要望があれば確認後、差し上げている。

Ⅲ. 平成１８年度のまとめ

１.安城市民活動センターの委託運営については、計画通り遂行できた。

２.しかし、わくわくサロン（年６回）については、最終の年度末まで引き伸ばしてしまい、計画運営に困難をきたした。余裕のある計画立案推進が必要。スキルアップ講座は手づくり講座も含め、年 4 回は計画通り実施できた。

３.各目標については 2 年目でもあり､前年を上回る実績を目標に推進｡いずれもクリアすることが出来た。特にマッチング実績は前年比２００％以上の成果を得た。

４.開設３年目（2005 年 1 月 5 日開設）に入ったところで１万人来館者を達成した。これを節目として次の一手を打ってゆく必要がある。

５.スタッフ全員がレストハウス、わくわくセンター業務それぞれを兼務できるようにし、効率化を図る。

Ⅳ．平成１９年度の課題

１．センター機能の充実

時代の変化・社会の課題を先取りした運営で、市民に愛され・頼りにされる市民活動センターにしてゆく。

（１）継続課題の推進

①情報サイトの更なる利用拡大。（情報の速報性）と更なるマッチング活動の推進。
登録団体に対しては今までどおりの情報サイト説明会を継続実施してゆく。特にギャラリー作成については根気良く浸透を図ってゆく。サイトの使いやすさは旭化成と協働で改善を進めてゆく。

②登録団体・来館者の目標は 10%向上をめざす。個人登録者はマッチング評価に直接結びつく内容であり、積極的にアプローチし、50%増を掲げたい。元気 365 会員も増員を図ってゆく。

③わくわくサロン、スキルアップ講座については、時代の変化、課題の先取り等世相に合わせたものを取り込んでゆく。（安城としての環境首都・安城の題材は取り入れる。）

（２）重点施策

①わくわくセンターと社会福祉協議会、生涯学習課との連携、協働の強化を図ってゆく。情報交換のできる機会づくり。特に運営委員会はお互いの情報交換ができる、重要な位置づけとなる。また、公民館活動、町内会活動との情報交換ができる機会づくりも必要である。

②効果的対応のため、センター間のネットワーク化の構築を進める。

２．スタッフのスキルアップ

（１）業務のマニュアル化

刈谷センターを参考にし、業務のノウハウをマニュアル化してゆく。

（２）自己啓発

業務遂行のため、スタッフの自己啓発は不可欠である。（刈谷センターと歩調を合わせ実施）

内容　・NPO、企業、行政間の協働
・平常時のコーディネーター能力の向上
・災害時のコーディネーター能力の向上

方法　・NPO 愛知ネットの集合教育
・センター内の集合教育（ｽﾀｯﾌﾐｰﾃｨﾝｸﾞ時、集合教育等）
・外部研修に個人参加できる環境づくり

NPO愛知ネット　活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

平成 18 年度　レストハウス実績

Ⅰ．レストハウス事業

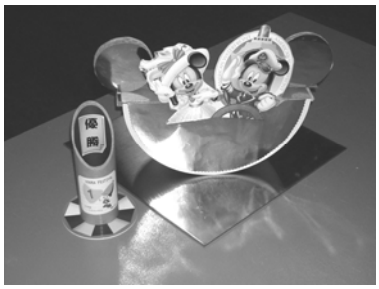
（1）「ゆ～ら」フェスティバル in 秋葉レストハウス

子どもからお年寄りまで、同じ土俵で楽しめる「ゆ～ら」フェスティバル
つくる！　きそう！　たのしむ！だれでも楽しめるレクリエーションメニュー

日　　時：2006 年 11 月５日（日）　13：00～16：30
主　　催：秋葉いこいの広場　指定管理者（NPO　愛知ネット）
協　　力：ゆ～らアソシエーション　（愛知産業大学スタッフ）
参 加 人 員：43 名

今回はペーパ（紙）のリサイクル品を材料に「ゆ～ら」フェスティバルを開催。このイベントを開催するに当り、事前に「ゆ～ら」公式審判講習を開き、公式審判資格を取得して臨んだ。イベントの運営は全て自前で推進することが出来た。（昨年はゆ～らアソシェーションのメンバーが運営推進）

ゆ～ら製作風景



ゆ～ら優勝作品

ゆ～ら競技風景

２.施設利用状況

利用状況は多目的ホール、小会議室、和室、テニスコート利用人員の総数。

	平成 17 年度利用者数	平成 18 年度利用者数	対前年比	備考
4 月	２,６８６人	２,７０３人	100.6%	
5 月	２,２７３人	２,６８６人	118.2%	和室が 10 倍増、他部屋の利用者 150%
6 月	２,６２５人	３,１３２人	119.3%	和室利用者 200%、他部屋利用者 10%強の増
7 月	２,８４４人	３,０６３人	107.7%	
8 月	２,３５４人	３,３１２人	140.7%	多目的 180%、和室 217%、テニス 130%の利用者増
9 月	２,８９６人	３,２１２人	110.9%	多目的 135%、和室 190%の利用者増
10 月	２,４７４人	３,４３５人	138.8%	和室 205%、テニス 120%の利用者増
11 月	３,０６７人	３,５２１人	114.8%	多目的 126%、和室 142%の利用者増
12 月	２,３９９人	２,７４０人	114.2%	多目的９%、小会議室 44%、和室 35%、テニス 10%利用者増
1 月	２,４０１人	２,３２７人	96.9%	
2 月	２,５４９人	２,５２４人	99.0%	
3 月	２,７２７人	２,９６８人	108.6%	（平成 18 年度は平均の見込み数）
年間	３１，２９５人	３５，６２４人	113.8%	

※1　多目的の利用者増が全体の人員増の要因となった。→エアロビックス使用団体が増えた。
※2　営業でのアルバイト採用面接が定期的に開催された。その他ブラジルの子どもの誕生会も開催。参加者は相当な人数になる。

サポーター設置事業

１.目的

田原市で活動する市民活動団体が抱える問題や課題を団体のスタッフと確認しあいながら、問題を共有化した上で、本当のねらいは何か、その解決策はどうするのかを一緒になって考える機会をつくる。

田原市においては、将来的に市民活動を促進させることで地域の活性化とまちづくりを進めていく中で、今後は市民活動の活動範囲や規模も大きくなっていくと思われる。

そこで、今回のＮＰＯサポーター設置事業では、市民活動団体発展のキーになりうる中間支援団体の育成と得意分野を持つ団体の質的な向上、全体のレベルアップにつなげるための相談事業、団体支援事業を行うことで、活発で自立した団体を育成することを目的とする。

２．事業内容

下記内容の事業を進めることで、団体のレベルアップと中間支援団体の育成を行う。

（１）ＮＰＯサポーター相談事業：田原市内のＮＰＯ、市民活動団体の各種相談を受ける。
（２）ＮＰＯサポーター支援事業：特定の１団体に対する運営支援を複数回に渡って実施。
（３）ＮＰＯサポーター養成講座：中間支援のためのノウハウを習得し体験をする。

（１）　ＮＰＯサポーター相談事業

１．相談事業の目的

田原市で活動している団体の運営上の課題や問題をどう捉えて向き合うかを考える機会を持ち、自ら課題解決できる力を身につけることで、充実した活動を展開できるようにする。

２．相談事業の内容

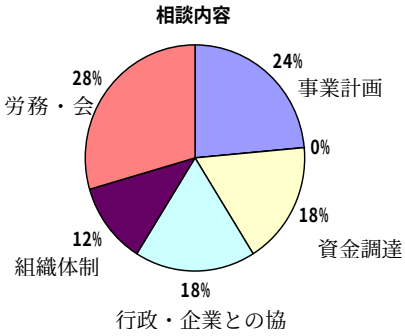
平成１８年１０月から平成１９年２月までに合計８回の相談を行った。但し、その内２回は団体の都合上、指定の日に尋ねることができないことから、日程を一部追加して実施した。相談件数としては全体で２０件、訪れた団体数は１１団体とあまり多くない。また、同じ団体が数回に渡って相談に来る場合も多かった。相談内容については満遍なくいろいろな相談が多かった。

●団体の分野

保健･医療･福祉：１団体
まちづくり　　：１団体
国際協力　　：１団体
環境保全　　：１団体
中間支援　　：１団体

●相談内容の種類

事業計画　　：４
法人設立　　：０
資金調達　　：３
行政・企業との協働：３
組織体制　　：２
労務・会計　　：５



回	月日・時間	会場	相談件数（団体数）	参加者数
第１回	10 月 26 日(木)13:00～19:00	田原文化会館 204 会議室	４件（２団体）	３名
第２回	11 月　9 日(木)13:00～19:00	田原文化会館 204 会議室	０件（０団体）	０名
	11 月 12 日(日)13:00～16:00	渥美文化会館	２件（１団体）	５名
第３回	11 月 23 日(木・祝)13:00～19:00	田原文化会館 204 会議室	６件（３団体）	５名
	12 月 9 日(土)15:00～18:00	渥美文化会館 ロビー	２件（１団体）	２名
第４回	12 月 14 日(木) 13:00～19:00	田原文化会館 204 会議室	２件（１団体）	２名
第５回	1 月 11 日(木) 13:00～19:00	田原文化会館 204 会議室	２件（１団体）	１名
第６回	2 月　8 日(木)　13:00～19:00	田原文化会館 204 会議室	３件（２団体）	３名
合計			２０件（１１団体）	２１名

（２）　サポーター支援事業

１．支援事業の目的

田原市においての市民活動を促進させるため、特に今後中核的な団体として活躍できるＮＰＯ法人に対して、団体の運営方法、資金調達、事業活動における課題を解決する手段・手法をサポーターが支援することで、将来的に自立し活躍できる団体を育てることを目的とする。

２．支援事業の内容

今回は公募により１団体を支援することになった。若者を中心として食・農・環境をテーマにネットワークを広げて田原市の文化を広めていきたいという団体。平成 18 年 10 月～平成 19 年 2 月の間に６回程度訪問し、団体の課題・問題点を抽出して課題解決まで指導、アドバイスする。

回	訪問日時	ｻﾎﾟｰﾀｰ	主な支援内容〔具体的な成果〕
第１回	11 月 7 日(火) 14:00～18:00	大野 寺田	・顔合わせ、団体事業活動の見学 ・サポーター支援の進め方と意見交換
第２回	11 月 22 日(水) 15:00～17:00	大野 寺田	・中期計画の立て方、目的と手段、ミッションなど ・今後の日程調整（隔週水曜日とする）
第３回	12 月 6 日(水) 15:00～17:00	大野	・　機能展開について説明する ・　ＮＰＯはっくるべりーじゃむの機能を抽出する
第４回	12 月 20 日(水) 15:00～17:00	大野	・　企画の立て方、進め方について講義する ・　機能展開を利用した対策案・手順について説明する
第５回	1 月 10 日(水) 15:00～17:00	大野	・　ＮＰＯはっくるべりーじゃむの機能を表現する ・　思い・考えを、うまく伝える表現を検討する
第６回	1 月 31 日(水) 15:00～17:00	大野	・　ＮＰＯはっくるべりーじゃむの機能を確定させる ・　自分たちの位置づけが明確に説明できた

（３）　ＮＰＯサポーター養成講座

回	月日・時間	会場	参加団体	参加者数
第１回	11 月 12 日(日) 10:00～12:00	田原文化会館 204 会議室	ＮＰＯたはら広場	３名
第２回	11 月 19 日(日) 13:00～16:30	田原文化会館 204 会議室	市役所職員 ＮＰＯたはら広場 はっくるべりーじゃむ 豊田市ＷＳ研究会	１２名
第３回	1 月 13 日(土) 9:00～17:00	安城市市民活動センター⇒ 刈谷市民ﾎﾞﾗﾝﾝﾃｨｱ活動支援ｾﾝﾀｰ⇒ とよた市民活動センター	ＮＰＯたはら広場	３名
第４回	2 月 6 日(火) 9:00～17:00	安城市：2 名 (安城市民活動センター) 刈谷市：1 名 (刈谷市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動支援ｾﾝﾀｰ)	ＮＰＯたはら広場	３名

第１回：サポーターの役割と重要性（講座）

市民活動のサポートは何をすればいいのか。どんな役割があるのかを学び、市民とＮＰＯ・ボランティアとのマッチングとその重要性について事例を紹介しました。事例については、刈谷市民ボランティア活動支援センターの事例を中心に、団体の抱える課題と個人が求める活動について、しっかりと聞き取りをした上で団体を紹介し、活動に関わってもらえるようにフォローしていくことが重要であることを認識することができました。

第２回：ワークショップの活用法（ワークショップ）

市民活動を効果的にスムーズに行なうために欠かせないワークショップの技法とファシリテーションを学ぶ。

最初にｗｉｓｈ　ｐｏｅｍというワークで、「私の活動は○○○になったらいいな！」というテーマで自らの活動をどうしたら理想に近づけることができるかをブレーンストーミングでアイデアを出し合い、その中で合意形成を図ってグループ単位の意見をまとめました。次に「活動におけるミーティングのあり方」というテーマで「良い会議」と「悪い会議」についてワークショップで意見を出し合って考えました。会議の一員としてどんな発言をすればいいのか、全体のファシリテーターとして、どんな態度で振る舞えばいいのかを、実践の中で考える機会を持つことができました。

第３回：西三河地区の支援センター見学（視察）

安城市、刈谷市、豊田市で活動している各支援センターの状況を見学し、その違いや中間支援としてどんな活動をしているのかを担当者を交えて話を聞く。また、各センターを利用している団体からの情報も含めて、どんなサービスが求められているのか、どんな活用をしているのかを知ることができました。

第４回：ＮＰＯ・ボランティア支援センターのスタッフ体験（体験学習）

支援センターのスタッフになってもらい、ボランティアと団体とのコーディネートやマッチングの進め方を学んでもらいました。そのほか、市民活動情報サイトの利用法や効果的な情報の収集・発信のやり方のノウハウを実例を通して体験していただきました。

市　民　活　動　セ　ン　タ　ー　の　ス　タ　ッ　フ　体　験

デンソーリユースパソコン寄贈プログラム

２００６年度「デンソーグループ・リユースパソコン寄贈プログラム」を実施

～寄贈先ＮＰＯ法人・ボランティア団体を募集～

株式会社デンソー（本社：愛知県刈谷市、社長：深谷 紘一）は、２００６年度の「デンソーグループ・リユースパソコン寄贈プログラム」を実施しています。

本年度は、パソコン提供会社として新たにＧＡＣ株式会社（長野県安曇野市）が加わり、デンソーグループ１２社（※１）で約１５０台のリユースパソコンをＮＰＯ法人及びボランティア団体へ寄贈する予定です。

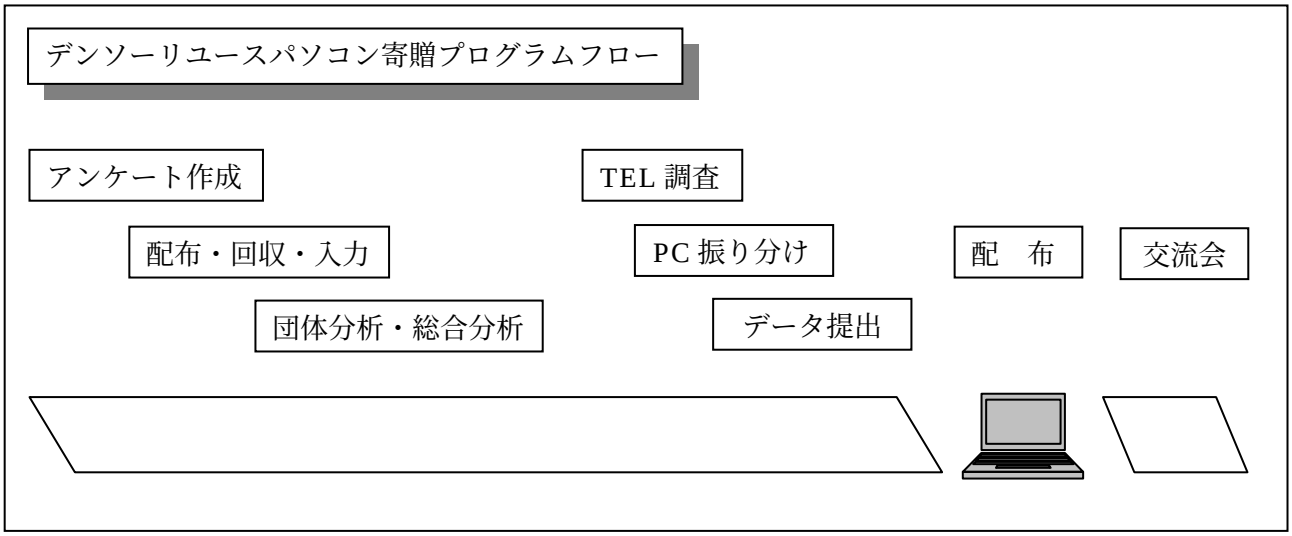
現在、デンソーとグループ会社の所在地である愛知県、三重県、静岡県、長野県、広島県、福岡県のＮＰＯ法人及びボランティア団体を対象に、寄贈先を募集しています。募集期間は２００７年1月３１日までです。（申込みの詳細は、こちらをご参照ください。）

「デンソーグループ・リユースパソコン寄贈プログラム」は、デンソーグループ各社が提供した中古パソコンを、新品同様のリユースパソコン（※２）としてＮＰＯ法人及びボランティア団体へ寄贈する社会貢献プログラムです。２００２年から実施しており、これまでに約３６０台のリユースパソコンを約３００団体に寄贈しました。寄贈したパソコンは、文書作成や情報連絡、障がい者などへのパソコン講習などに活用されています。

デンソーグループは、これからも地域のＮＰＯ活動を支援すると共に、地域社会とのコミュニケーションを深めていきます。

※１　（株）デンソー、（株）デンソーアイセム、（株）デンソーセイビ、デンソー太陽（株）、（株）デンソーユニティサービス、浜名湖電装（株）、デンソーテクノ（株）、（株）デンソーＥＭＣエンジニアリングサービス、アスモ（株）、ＧＡＣ（株）、（株）日本自動車部品総合研究所、（株）デンソー北九州製作所

※２　中古パソコンは、障がい者雇用の特例子会社であるデンソー太陽株式会社（愛知県蒲郡市）が ＮＰＯ法人イー･エルダーの技術支援を受け、データ消去、ソフトウェア搭載や外装クリーニング等の再生作業を行っています。



■ まちづくり
Town planning

２００４年からはじめた「いっつもトーク電話通訳」事業も、刈谷市生活安全課、トヨタ記念病院との新規契約が増え、少しずつではあるが浸透てきている。電話を使った通訳ばかりではなく、市町の広報（三好町）や保険所、診療所などの問診票（三河安城クリニック）などの翻訳依頼も来るようになった。０６年１０月ごろより、「在住外国人」とか「多文化共生」というキーワードを使った新聞記事などが増え始め、在住外国人への関心度が、これまでに比較して大きくなり始めた。

このような状況の変化に対応していくために、いっつもトークの営業を強化（専属スタッフの増員や、インターン生の活用）を進めていくことにした。

●いっつもトーク電話通訳を利用している様子

●いっつもトーク電話通訳を利用するためのツール

A:いっつもトーク事業展開：多言語通訳センター運営		平成１８年４月～１９年３月
B:いっつもトーク営業展開：刈谷市生活安全課と新規契約		平成１８年　４月～
	トヨタ記念病院と新規契約	平成１８年１０月～
	大府市より引き合いあり（継続商談中）	平成１８年１２月１３日
	愛知県国際交流協会より引きありあり（継続商談中）	平成１９年　１月２３日
C:いっつもトーク翻訳事業：岡崎市広報ポルトガル語版		平成１８年　４月～１９年３月
	三好町広報ポルトガル語・英語版	平成１９年　３月～
	三河安城クリニック問診票ポルトガル語翻訳	平成１８年６月、１１月
	多文化医療サービス研究会冊子ポルトガル語翻訳	平成１９年　１月～３月
D:いっつもトーク広報事業：「医療通訳研究会」にて多言語通訳グループを説明		平成１８年　５月１４日
	「いっつもトーク岐阜市通訳センタ立上事業」提案	平成１８年１０月１０日
	「医療通訳を考える全国会議」にてデモ・説明	平成１９年　２月１８日
E:工場長養成講座調査事業：中部科学技術センターが受託した「工場長養成塾」		
	の講義の評価および製造企業への市場調査	平成１８年６月～１９年２月

東海地域における長期インターンシップを
活用したマッチング事業 ～『オレ、取締役。』プロジェクト～

1．事業のターゲット（若者）

(1)ターゲット：

従来のレールを敷かれた就職活動だけではない主体的な就職を目指したい意欲の高い若者（今年度は主に学生）。

(2)理由：

そもそも大企業志向の強い今の若者の意識が中小企業に向く、しかも意欲の高い若手人材がそうなるためには、彼ら自身にフロンティアスピリットが必要だと思われるから。従来のレールの敷かれた就職活動に疑問を持ち、自分らしい行き方・働き方を模索できる感性を持ったクリエイティブ人材でなければ、大企業志向という今の風潮に逆らってまで取り組むことはできないであろう。

2.事業のターゲット（企業）

(1)ターゲット：

この地域にとって持続可能であって欲しい企業で且つ何らかの魅力がある企業ではあるが、若者に対する訴求力が弱いために若手人材の確保に苦慮している中小零細企業。

(2)理由:

地域の中小企業が若手人材の確保できないことは、将来的に地域力の衰退につながると考えられるから。この地域には、無くてはならない企業で、且つ魅力的な企業がたくさんありながら、若者にそのような企業の情報が届いていない。地域企業が力を合わせて、若者人材確保のための対策を地道に練っていく必要があるであろう。

3.どのようなネットワークを構築するか

(1)どのようなネットワークを構築するか

・若者発掘プロジェクト：本事業のターゲットとなる若者を発掘する。

・企業発掘プロジェクト：本事業のターゲットとなる企業を発掘する。

・魅力強化プロジェクト：本事業に関心のある企業に対して、若者への訴求力を強化する。

・魅力発信プロジェクト：本事業に関心のある企業および本事業の情報を若者に届ける。

・サロンプロジェクト：若者と中小企業との交流の場をつくる。

・長期実践型インターンシッププロジェクト：若者と中小企業とのお互いの理解促進のために数ヶ月のインターンシップを実施する。

・就職フェア：　本事業に関心のある企業による就職フェアを実施する。

・魅力創出エンジン構築：　本事業に関心のある企業同士による勉強会を実施する。

(2)実施体制について

・若者側

実務：コーディネート：　特定非営利活動法人 G-net

実務、協力：　学生団体

協力、アドバイザー：　東海地域インターンシップ推進協議会

・企業側

実務、コーディネート：　特定非営利活動法人 NPO 愛知ネット

協力、アドバイザー：　愛知県中小企業団体中央会、株式会社ジオコス

・魅力発信：　株式会社ピースウェブ（学生起業家）

・全体コーディネート：　特定非営利活動法人 NPO 愛知ネット

4.スタート時の設定目標

・若者発掘：アプローチ のべ 1,000 名、各プロジェクトへ参加 のべ 300 名、インターンシップへ参加 5～15 名

・企業発掘：アプローチ 100 社、魅力創出エンジンへの参加 15 社、インターンシップの受入れ 7 社

・魅力創出エンジンの仕組み構築、Web サイトの構築

５．具体的な取組み（※目的に対しどのようなプロセスを行ったか）

①キーマン：事務局メンバー全員

②役割分担：

●事務局：　必要な役割、以下のようなプロジェクト形式に分割し、推進。

・若者発掘プロジェクト：秋元、辻村

・企業発掘プロジェクト：大野、戸田、安恒

・企業探検隊プロジェクト（←魅力強化プロジェクトから改称）：戸田、戸上、成田、都筑（学生）、稲石（学生））

・魅力発信プロジェクト：高嶋、浅井

・イベントプロジェクト（サロン、勉強会、研修会の企画）：　事務局メンバー全員

・長期実践型インターンシッププロジェクト：事務局メンバー全員（各マッチングごとに担当者をつける）

・就職フェアプロジェクト：戸田、安恒、成田

・魅力創出エンジン会議：事務局メンバー全員

●全体会議構成委員：当事業の進捗状況の確認。それぞれの分野での協力。

・企業発掘への協力：愛知県中小企業団体中央会振興部（安田氏）

・若者発掘への協力、インターンシップ事業への情報提供：東海地域インターンシップ推進協議会（刈田氏）

・企業と若者のマッチングに関する指導・助言、講演など：株式会社ジオコス（伊藤氏）

・魅力発信および本事業に関する Web サイトの構築：株式会社ピースウェブ（浅井氏；学生起業家）

・企業探検隊における学生コーディネータ：佐野氏(学生)、伊藤氏(学生)、ほか各学生団体メンバー

③手法

・若者発掘プロジェクト：大学内・外でのイベントを通して、若者に中小企業の魅力を伝え、企業探検隊やインターンシップ事業への関心を持たせた。

・企業発掘プロジェクト：本事業のターゲットなる企業への人材ニーズ調査、ヒアリングを通して、企業探検隊やインターンシップ事業、魅力創出エンジン会議などへの参画・協力を要請した。

・企業探検隊プロジェクト：学生に企業に訪問してもらうことで、企業が魅力を直接若者に伝える場を作った。また、企業側に対しては、学生の感じた率直な意見をフィードバックした。

・魅力発信プロジェクト：魅力発信のために必要な Web サイトやメルマガを企画・制作し、運用した。

・イベントプロジェクト：サロン、勉強会、研修会を企画し、開催・運営した

・魅力創出エンジン会議：本事業の成果を企業へフィードバックし、企業同士が切磋琢磨する場を提供した。

《特筆事項》

・企業探検隊：　若者にとって魅力と感じるのは、中小企業の経営者に直接あって話を聞くことであった。そこで、若者が、自分たちの手で企業の経営者に取材する内容をきめ、実際に取材する体制を構築した。また、取材によって得られた魅力を、例えば「就職したい度合い」などで表現した。

・魅力創出エンジン会議：　上記の結果（企業探検隊の評価）を企業にフィードバックし、若者が感じている企業の魅力に気づいてもらうステップを通して、若者の考え方を中小企業の経営者に理解してもらうための会議体を作った。この会議の運営を通して、若者と中小企業とを結ぶネットワークの基盤を構築することができた。

６．設定目標の達成度

・若者発掘：　事業の告知イベント　18 回実施、参加者のべ 1242 名

⇒　メルマガ登録者（企業探険隊員）　約 45 名　⇒　企業探検隊　13 回のべ 59 人

⇒　マッチングフェア参加　36 名　⇒　インターンシップ参加　7 名（見込み）

・企業発掘：　事業告知　300 社　⇒　ヒアリング（実際に訪問した企業）　29 社

⇒　企業探検隊　13 回 10 社、　マッチングフェア参加　5 社

⇒　ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ受入　6 社（見込み）、　就職フェア（探険隊バスツアー）3 社（見込み）

７．達成度（自己評価）　85%：

若者に対しても企業に対しても、広く告知を行うことができた。しかしながら、大きく関心を持ってもらうまでには至らなかった。ネットワーク構築ついては、基盤は出来たものの今後さらに継続して発展する必要がある。

２ボランティア団体と協定結ぶ

県大規模災害へ体制整備

大規模災害時に全国から駆けつけるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの受け入れ体制整えるため、県は十七日、県内の二つのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体と協定を結んだ。ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱのｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰを派遣してもらうなどの内容で、締結先は計十三団体となった。

新たに締結したのは、豊田市のﾄﾖﾀｸﾞﾙｰﾌﾟ災害Ｖﾈｯﾄ(鈴木盈宏代表)と、安城市の特定非営利活動法人NPO愛知ﾈｯﾄ(天野竹行理事長)の二団体。

県は災害時に公設民営型の「広域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ支援本部」を開設してﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを受け入れる力針で、協定締締結団体には支援が必要な地域の情報を示してﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの仕事を調整するｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの派遣、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの人員確保などの面で協力してもらう。

この日は二団体の代表が県庁を訪れ、恩田正美防災局長とともに協定書に調印。恩田局長は「いざという時に備え、しつかり連携をとっていきたい」と話した。(勝見孝吉)

２ボランティア団体と協定結ぶ
県 大規模災害へ体制整備
大規模災害時に全国から駆けつけるボランティアの受け入れ体制を整えるため、県は十七日、県内の二つのボランティア団体と協定を結んだ。ボランティアのコーディネーターを派遣してもらうなどの内容で、締結先は計十三団体となった。
新たに締結したのは、豊田市のトヨタグループ災害Vネット（鈴木盈宏代表）と、安城市の特定非営利活動法人NPO愛知ネット（天野竹行理事長）の二団体。
県は災害時に公設民営型の「広域ボランティア支援本部」を開設してボランティアを受け入れる方針で、協定締結団体には支援が必要な地域の情報を示してボランティアの仕事を調整するコーディネーターの派遣、ボランティアの人員確保などの面で協力してもらう。
この日は二団体の代表が県庁を訪れ、恩田正美防災局長とともに協定書に調印。恩田局長は「いざという時に備え、しっかり連携をとっていきたい」と話した。
（勝見 孝吉）

若者と中小とのネットワーク構築

中小企業庁、18事業採択

2006.6.2　日刊工業新聞　31面

経済産業省・中小企業庁は1日、06年度の新規事業「若者と中小企夢このﾈｯﾄﾜｰｸ構築事業」(地域ﾚﾍﾞﾙでの中小企業の人材確保支援事業)の対象として、18事業を採択したと発表した。この委託事業は地域で成長期にある中小企業の魅力を若者に発信する場を設け、中小企薬への就職機会を増やすのが狙い。地域に精通したｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰが中心となり、経済団体や自治体などと連携して若者と中小企業の橋渡しを行う。初年度の予算は4億円。今回、34件の応募の中から選ばれた18件の申請者とﾃｰﾏは次の通り。

【東北】▽会津ﾘｴｿﾞﾝｵﾌｨｽ=少数精鋭へのﾊﾝｽﾞｵﾝ支援による成功ﾓﾃﾞﾙ創出と基幹人材確保支援

【関東】▽ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺﾝﾃﾝﾂ協会=ｺﾝﾃﾝﾂ産業のｸﾘｴｲﾀｰ・ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ人材確保支援▽浜名湖国際頭脳ｾﾝﾀｰ=ﾓﾉ作り製造業と高校生とのﾏｯﾁﾝｸﾞ・定着率重点向上支援▽大田区産業振興協会=表彰企業などによる大田区中小企業ｲﾒｰｼﾞ刷新支援▽首都圏産業活性化協会=ｺﾗﾎﾞﾚｰｼｮﾝ型ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟによるTAMA地区研究開発型企業の人材確保支捷▽関東ﾆｭｰﾋﾞｼﾞﾈｽ協議会=IPO目指すﾍﾞﾝﾁｬｰ企業のための会計人材・起業意欲有る人材確保支援▽OCP総合研究所=「３日間社長ｶﾊﾞﾝ持ち体験」を組み込んだ中小企業魅力体感支援▽上田繊維科学振興会＝ｶﾘｽﾏ職人専の活動PRを取り入れた人材確保支援

【中部】▽三重県商工会議所連合会=桑名式ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟの拡大による地域ぐるみの人材確保支援▽NPO愛知ﾈｯﾄ＝若者のｺﾐｯﾄﾒﾝﾄを高める実践型ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟおよび三者面談によるﾏｯﾁﾝｸﾞ支援　【近畿】立命館大学=産学連携が求める経営中核人材候補に対する魅力発信支援▽彦根商工会議所-=四つの地場産業を中心とした課題解決型ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ導入人材確保支援▽和歌山県中小企業団体中央会＝先導的企業を核とした魅力発信型人材確保支援　【四国】▽香川経済同友会=実践型ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ受け入れ企業の課題解決通じた優秀な学生の獲得・地元定着支援　【中国】▽ﾊﾟｿﾅｷｬﾘｱｱｾｯﾄ＝ｼﾞｮﾌﾞｶﾌｪと連携した総合的人材確保支援▽中国地域ﾆｭｰﾋﾞｼﾞﾈｽ協議会=「5‥０１ｸﾗﾌﾞ方式」小規模・能動ﾏｯﾁﾝｸﾞの積み重ねによる相互理解促進支援　【九州】ｱｼﾞｱﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ=環黄海ﾋﾞｼﾞﾈｽに携わる若者人材獲得支援　【沖縄】ｵｰｼｬﾝ21=沖縄Uﾀｰﾝ組を対象としたﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ候補人材確保支援

NPO愛知ネット　マスコミ･メディア活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

目指せ麺打ち

岡崎　親子がうどん作り体験

中日新聞　2006.6.4

親子でうどん打ちを体験する「君は今日、麺打ちの達人になる！」が三日、岡崎市美合町の県青年の家であった。

　青年の家の地域ふれあい事業の一つで、親子間の交流、家族を超えた交流、施設と地域の交流の意味合いから企画され、親子五十三人が参加した。三家族がひとつの班となって協力し、つけ麺タイプのうどん作りに挑んだ。

　うどん粉と水を混ぜた生地を、めん棒で念入りに薄く延ばす力仕事は、お父さんたちが大活躍。生地をめん包丁で細く切る作業では、同施設の職員たちが「優しい気持ちになって」とアドバイス。自分たちでおこした火でゆで上げ、おいしくうどんを食べていた。

　食後は聴診器で森の木野子道を聴く自然観察やグランドゴルフで体を動かした。（栗山真寛）

目指せ麺打ちの達人

岡崎　親子がうどん作り体験

親子でうどん打ちを体験する「君は今日、麺（めん）打ちの達人になる！」が三日、岡崎市美合町の県青年の家であった。

青年の家の地域ふれあい事業の一つで、親子間の交流、家族を超えた交流、施設と地域の交流の意味合いから企画され、親子五十三人が参加した。三家族が一つの班となって協力し、つけめんタイプのうどん作りに挑んだ。

うどん粉と水を混ぜた生地を、めん棒で念入りに薄く延ばす力仕事は、お父さんたちが大活躍。生地をめん包丁で細く切る作業では、同施設の職員たちが「優しい気持ちになって」とアドバイス。自分たちでおこした火でゆで上げ、おいしくうどんを食べていた。

食後は聴診器で森の木野子道を聴く自然観察やグランドゴルフで体を動かした。（栗山真寛）

うどんの生地を切っていく親子＝岡崎市美合町の県青年の家で

その修理まかせて！

～牧野さんら4人がボランティア～　いすとテーブル手作業で

刈谷ホームニュース　2006.6.10

　今年4月、新田町に開所した重症心身障害者の通所授産施設「ひかりﾜｰｸｽ風鈴」。社会福祉法人「ひかりの家」が募金活動などで建設費を工面し、やっとの思いでオープンにこぎつけたが、食堂に置く木製のテーブルといすにまで手が回らず、中古品を購入せざるを得なかった。多少のがたつきなどがあり、気になっていたが、この話を聞いた６０代の男性4人が5月27日、工具やﾎﾞﾙﾄなどを持参して修理に駆けつけた。

　訪れたのは牧野清光さん=東浦町=、甲村康臣さん=高松町=、北野幸助さん=中手町=、清水敏和さん=半田市=。

　牧野さんは刈谷市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動支援ｾﾝﾀｰに勤務。「風鈴」がﾃｰﾌﾞﾙなどを修理してくれるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを求めていることを知り、自ら引き受けるとともに同ｾﾝﾀｰのﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞなどで協力を呼びかけたところ、同世代の3人が名乗り出た。

　日にちを打ち合わせて「風鈴」に集まり、朝から作業に取りかかった。ﾃｰﾌﾞﾙ9卓といす36脚を一つひとつﾁｪｯｸしながら黙々と作業に取り組んだ。

　ｶﾞﾀｶﾞﾀするいすは、のこぎりややすりで高さを調節し、ｸﾞﾗｸﾞﾗするﾃｰﾌﾞﾙはﾎﾞﾙﾄなどを取り付けてしっかり固定した。

　清水さんは「保育園なでておもちゃ修理をやっているから」と手慣れた様子で修理を続け、牧野さんは「直したﾃｰﾌﾞﾙやいすを気持ちよく使ってもらえたらいいなあ」と額の汗をぬぐった。

　食堂は通所者が利用するほか、毎週金曜には喫茶店としても一般営業している。施設長の川村顕治さんは「普段、利用者の介護でなかなかほかに手が回りません。みなさんに修理してもらえて感謝しています」と話していた。

その修理まかせて！

～牧野さんら４人がボランティア～

いすとテーブル手作業で

中古たけど大切な備品

ボランティアでテーブルといすを修理する牧野さん

ＮＰＯが検討開始

愛知県青年の家を企業研修の場に

中部経済新聞　2006.7.7　6 面

愛知県青年の家を企業研修の場に

ＮＰＯが検討開始

企業研修などが計画されている「愛知県青年の家」

施設特性活用で差別化

稼働率向上と地元貢献へ

愛知県の教育宿泊施設「愛知県青年の家」（赤堀隆所長）を、県内中小企業の人材育成の場として活用する計画が、進められている。特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）まほろば（事務局西尾市、伊藤則男理事長）が、施設の特徴を生かした研修内容などの検討に着手した。同施設が本年度から指定管理者制度に移行されたことをきっかけに、「従来の機能を保ちながら新しい事業を展開して稼働率を向上させ、同時に地域企業に貢献する」（赤堀所長）ことをねらっている。

赤堀　隆所長

岡崎市美合町にある同施設は、県内唯一の青年の家。社会教育施設として児童・学生の課外活動に利用されているほか、企業の研修目的などでも集団宿泊できる。本年度から、ＮＰＯ法人愛知ネット（事務局安城市、天野竹彦理事長）が指定管理者として、まほろばを機能させることにした。

研修内容は、野外炊飯場などの施設特性を生かし、商工会議所など他団体のゼミナールとの差別化を明確にする考え。

例えば、野外炊飯場で参加者が自炊することにより、コミュニケーション能力を開発。また、夜間宿泊しながら複数の企画講師を招く。

同青年の家の現在の稼働率は30％台。「年間宿泊数は一万五千人程度だが、毎年、稼働率を1～2％改善していくのが適切ではないか。ＮＰＯ法人の収益に直結するものではないが、稼働率が改善することは結果的に県の財政にプラスとなる。公的な施設を活用して、地元企業に貢献したいという気持ちもある」と赤堀所長は話す。

一方、ＮＰＯ法人まほろばは、二月に愛知県認証を受け、現在は西尾市歴史公園の指定管理者。赤堀所長が、まほろばに参画している経緯から、企業の研修ニーズに対応するための実行部隊として理事として、運営管理に当たっている。

今後、研修内容を固めていき、夏の繁忙期を避けて、九月ごろから新たな研修事業をスタートする計画だ。

研修は、複数企業の参加を基本に、二泊三日で一人三万円以内を予定。内容ごとに、外部の専任

（岡崎）

NPO愛知ネット　マスコミ･メディア活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

車座集会

刈谷ホームニュース　2006.7.8

■車座集会　15日(土)後6、市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動支援ｾﾝﾀｰ。NPOもやい代表の安井洋子さんを招き、「暮らしの小さなお手伝い」をﾃｰﾏに話し合う。参加者300円(茶菓子代など)。定員20人。申し込みは同ｾﾝﾀｰへ。

作品展

■車座集会　15日(土)後6、市民ボランティア活動支援センター。NPOもやい代表の安井洋子さんを招き、「暮らしの小さなお手伝い」をテーマに話し合う。参加費300円(茶菓子代など)。定員20人。申し込みは同センターへ。☎62・8210、☎26・2129のいずれかの方法で15日―8月4日までに申し込む。

■エコな時計を作ってみよう！　8月2日(水)前、市民ボランティア活動支援センター。清水敏和さん(おもちゃのお医者さん)を講師に、親子で廃材を使ってオリジナル時計を作る。材料費300円。定員は先着で親子10組はさみ、タオル持参。申し込みは同センターへ☎62・8331。

■第21回葉の会水墨画展―11―16日、市美術館　出品する

■藍染テヅクリ展―18日まで、カフェギャラリー月の雫(松栄町、☎22・6504)。工房テヅクリ(八幡町)がベ

エコな時計を作ってみよう

刈谷ホームニュース　2006.7.8

■エコな時計を作ってみよう！　8月2日(水)前、市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動支持ｾﾝﾀｰ。清水敏和さん(おもちゃのお医者さん)を講師に、親子で廃材を使ってｵﾘｼﾞﾅﾙ時計を作る。材料費300円。定員は先着で親子10組はさみ、ﾀｵﾙ持参。申し込みは同ｾﾝﾀｰへ

緊急通報メール配信

高浜市8月から　災害情報など迅速に

2006.7.30　中日新聞

高浜市は、八月一日ら市幹部や市議、消防関係者、住民防犯組織ﾒﾝﾊﾞｰらに、災害・火災・気象情報や不審者情報などの緊急通報をﾒｰﾙで送るｻｰﾋﾞを始める。三河地方では安城市が実施しており、本年度は知立市なども始める。緊急通報は大雨・洪水・暴風雨・高潮などの気象情報や震度3以上の地震、市内で発生した火災、地域の不審者情報など。

NPO愛知ﾈｯﾄを通じて市のｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰﾀﾞｰ以上の幹部職員や市議、小中学校、幼稚国・保育園、学区おやじの会、地域防犯パトロール隊、町内会、市消防団などの計三百人に直接、携帯電話のﾒｰﾙで知らせる。

従来の電話やﾌｧｸｽでは連絡に手間取り、ﾌｧｸｽは届いても相手がいつ目を通すか分からないといった不安が解消される。七月十一日に説明会を開き周知を図る。事業費約四十万円は本年度一般会計当初予算に計上している。(神谷正之)

緊急通報メール配信

高浜市　8月から　災害情報など迅速に

高校家庭クラブの指導者らが研究会

岡崎で始まる

中日新聞　2006年8月23日

家庭科などがある県立高校十七校の生徒が集う県高校家庭クラブの連盟指導者研究会が二十二日、岡崎市美合町の県青年の家で始まった。

一泊二日の合宿で一、二年生を中心に約七十人が参加。来夏に豊橋市で開かれる全国高校家庭クラブ研究発表大会に先駆け、例年以上のリーダーシップが生徒やクラブ顧問の教員に求められており、参加者は真剣に取り組んだ。

初日は、それぞれの学校での活動を報告。体を動かすレクリエーションゲームを通じて仲間づくりのこつを身につける講座を受講。生徒たちはじゃんけんをしたり、大声で呼び合ったりして解け合っていた。二十三日は首飾りなどのアクセサリー作りに取り組む。

新聞記事の書き方を学ぶ

岡崎　農業高校の生徒ら

中日新聞　2006年8月25日　県内版

18年）8月25日（金曜日）　中

新聞記事の書き方学ぶ

岡崎　農業高校の生徒ら

県内の農業高校の生徒たちが新聞作りを学ぶ新聞講座が二十四日、岡崎市美合町の県青年の家であった＝写真。二十五日までの一泊二日の日程で同施設で開かれている県学校農業クラブ連盟リーダー研修会の一講座としてあり、参加している十一校の五十人が受講。中日新聞ＮＩＥ事務局の渥美勝朗委員が講師を務めた。

渥美委員は新聞の歴史や原稿の書き方、レイアウトの方法などのテーマで講演。「分かりやすく、正確に」「ポイントを落とさずに」と記事を書く心構えを説いた。

アドバイスをもとに、生徒と引率の先生たちは原稿用紙に向かって新聞記事に挑戦。自分たちが受けている講座を記事としてまとめる課題に、首をひねり、互いに相談しながら取り組んだ。

なかなかペンが進まない参加者に、渥美委員は「とにかく書いてみましょう」と激励。集まった原稿を添削し、講評していた。（栗山真寛）

県内の農業高校の生徒たちが新聞作りを学ぶ新聞講座が二十四日、岡崎市美合町の県青年の家であった。二十五日までの一泊二日の日程で同施設で開かれている県学校農業クラブ連盟リーダー研修会の一講座としてあり、参加している十一校の五十人が受講。中日新聞ＮＩＥ事務局の渥美勝朗委員が講師を務めた。

渥美委員は新聞の歴史や原稿の書き方、レイアウトの方法などのテーマで講演。「分かりやすく、正確に」「ポイントを落とさずに」と記事を書く心構えを説いた。

アドバイスをもとに、生徒と引率の先生たちは原稿用紙に向かって新聞記事に挑戦。自分たちが受けている講座を記事としてまとめる課題に、首をひねり、互いに相談しながら取り組んだ。

なかなかペンが進まない参加者に、渥美委員は「とにかく書いてみましょう」と激励。集まった原稿を添削し、好評していた。（栗山　真寛）

コーディネートの現場から　現場は語る　№９３

大阪ボランティア協会情報誌『Volo』　2006.9月号

市民活動情報を一元管理できます！

全国初か、住民・企業・行政が連携活用（愛知県）

まちづくり新聞　2006.8.25　12面

地域活性化の担い手である地域住民･企業･行政が求める「市民活動情報」を一元管理できる使い勝手の良いｼｽﾃﾑが愛知県刈谷市などで稼動し、実績を伸ばしている。旭化成㈱(東京)が開発した、全国初といわれる市民活動情報ｼｽﾃﾑ「元気365」だ。同ｼｽﾃﾑを導入した刈谷市は2003年（平成15年)10月に「かりや市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動情報ｻｲﾄ」を開設、地域住民300人以上をﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動に結び付けてきた。同市内に本社のあるﾄﾖﾀｸﾞﾙｰﾌﾟ企業の㈱ﾃﾞﾝｿｰは同じｼｽﾃﾑを導入し、2004年（平成16年）1月に「ｽﾏｲﾙゆうﾈｯﾄ」を解説。「かりやｻｲﾄ」との連携を図りながら、社員のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動を支援し、年間3,000人もの参加を促した。地域再生に欠かせない多様な担い手の市民活動を支援する簡易でｺｽﾄﾒﾘｯﾄのある全国唯一ともいわれるｼｽﾃﾑの活用解例を紹介する。

旭化成の市民活動情報ｼｽﾃﾑ「元気365」は同社のﾃﾞｰﾀｾﾝﾀｰ(サーバ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽなど完備）からｲﾝﾀｰ･ﾈｯﾄを通じてASP方式により提供する。初期導入費･保守管理費を大幅にｺｽﾄﾀﾞｳﾝできる。ｶｽﾀﾏｲｽﾞ（システムを顧客ﾆｰｽﾞに合わせること）への対応も可能。行政機関の内部ｼｽﾃﾑと分けることでｾｷｭﾘﾃｨｰ面もｸﾘｱできる、というもの。「元気365」の機能特長は①分散している市民活動情報を一元管理できる②活動団体ごとのﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ（HP)作成が可能で、受発信も簡便③市民の情報収得・情報発信が簡単怖にできる-など。

従来こうしたｼｽﾃﾑは管理者の維持管理負担が大きく、市民の使い勝手にも難があった。

今回のｼｽﾃﾑは管理者に専門家が必要なく、情報取得･発信作業が極力簡易になる。

旭化成では「自立分散型ｼｽﾃﾑ」と呼び、市民活動支援以外での活用も模索している。

「同社は旧通産省（現経済産業省）の平成10年度補正予算を受け、宮崎県延岡市を舞台に、ｼｽﾃﾑ化のための実証実験を行った」。ここでの基盤をもとに開発・発展させ、2001年（平成13年)10月から商品展開を進めている。現在までに全国で20自治体に導入され、18年度中には新規に約10自治体での採用が予定されている、という。

簡易なシステム、コストメリットあり　刈谷市の参加実績は300人以上

「元気365」をベースに平成15年10月に開設した「かりや市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動情報ｻｲﾄ」は、市の刈谷市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動支援ｾﾝﾀｰ（委託を受けたNPO法人愛知ﾈｯﾄが実質的運営)を主体に社会福祉協議会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰと共同で運営している。支援センターの牧野清光センター長は「全国どこの自治体も抱える悩みをクリアした。分散しているﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動情報を一元化できた。ｻｲﾄを通じて市民が、いつても･どこでも情報入手ができ、同時にﾎﾞﾗﾝﾃｨｱへの申し込みができる。管理運営も簡単だ。またﾃﾞﾝｿｰなど企業との連携も実現した」と同市のｻｲﾄ特長について説明する。

ｼｽﾃﾑ導入などを直接担当した刈谷市総務部生活安全課の神谷孝彦主幹は、「ｻｲﾄを通じてﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ募集などの情報発信をしている組織は208団体。個人としてﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ登録をしている市民は280人。2年余の期間に掲載された情報は1151件にのぼり、ｻｲﾄを通じて参加を申し込人だ人数は、これまで300人以上になる」と実績について触れる。

隣接両町村への波及も始まっている。

愛知県安城市民生活部市民活動課の太田芳樹さんは「市民協働の時代。17年1月、市民活動ｾﾝﾀｰを設置した。情報発信が重要だと考え実績のあった旭化成のｼｽﾃﾑを導入、「あんじょう市民活動情報ｻｲﾄ」として17年6月開設した。運営は市民活動ｾﾝﾀｰに任せている(刈谷市と同じNPO法人愛知ﾈｯﾄが委託を受け実質的運営)。18年6月末現在、197団体が登録している。サイトは、トヨタグループとの連携を図っているが刈谷市とはまだ。今後は他市町村との広域連携が課題だ」と話す。

「需要と供給」の関係に　年間延べ3000人がﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ参加

同じｼｽﾃﾑを導入した企業サイドのﾃﾞﾝｿｰらは2004年(平成16年）1月から「ｽﾏｲﾙゆうﾈｯﾄ」を開設、社員のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ支援をしてきた。

ﾃﾞﾝｿｰ総務部ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ支援ｾﾝﾀｰの大須賀恵子さんは「登録社員はﾄﾖﾀｸﾞﾙｰﾌﾟ企業全体で現在約1700人（うちﾃﾞﾝｿｰが1400人）。1年間に延べ3,000人程度がﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動に参加しています」と現状を説明し「使い勝手の良いﾂｰﾙ。ただ従業員数(ﾃﾞﾝｿｰだけで3万人以上)に比べると、まだ登録人数は少ないんです。ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄをうまくやることで社員への広がりを持たせていきたい。社員のﾆｰｽﾞ調査を行い、できたら地域ﾆｰｽﾞ調査(刈谷市含めた西三河ｴﾘｱ対象)なども実施し、裾野を広げていきたいと考えています」と抱負を述べた。

ﾃﾞﾝｿｰは1994年（平成6年）、総務部内にﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ支援ｾﾝﾀｰを設け、社員のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動をﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟしてきた。ｾﾝﾀｰ発足当初はﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ情報を社内ｲﾝﾄﾗﾈｯﾄを通じて発信したり、紙媒体での伝達をしていた。管理業務の煩雑さや、情報拡大の停滞が課題として浮かび上がっていた。また刈谷市内にあるﾄﾖﾀｸﾞﾙｰﾌﾟ企業3社（㈱豊田自動織機、豊田工機㈱、ｱｲｼﾝ精機㈱)も同じような課題を抱えていた。

刈谷市が「元気365」を採用する話しを聞き、同社を含めたﾄﾖﾀｸﾞﾙｰﾌﾟ4社も共同して同じｼｽﾃﾑを導入することを決めた。結果的には市ｻｲﾄと連携を図り、2004年(平成16年）一月から「ｽﾏｲﾙゆうﾈｯﾄ」の名称で始動した。ただ「ｽﾏｲﾙゆうﾈｯﾄ」は「かりやｻｲﾄ」などと異なり、ｾｷｭﾘﾃｨｰ面から社員専用としている（ID・ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞがないと進入できない)。

同じｼｽﾃﾑをﾍﾞｰｽに置いている「かりやｻｲﾄ」と「ｽﾏｲﾙゆうﾈｯﾄ」は連携が図れ、一種「需要と供給」のような関係にあるという。「かりやｻｲﾄ」から募集されたﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ情報に対し、「ｽﾏｲﾙゆうﾈｯﾄ」を通じて企業人材が供給されている、というのだ。

愛知県の、このﾈｯﾄを通じた住民・企業・行政が一体となった試みは、各担い手が、今もﾁｬﾚﾝｼﾞを重ねており、多くの可能性を秘めたものといえそうだ。

野外炊飯通じて交流を

「青年の家」で内定者研修　ブロンコビリー

2006年9月2日　中部経済新聞

企業の人材育成の場としての利用促進に乗り出した、愛知県の教育宿泊施設「愛知県青年の家」(岡崎市美合町、赤堀隆所長)に一日、ステーキハウス五十六店舗を展開する、ブロンコビリー（本社名古屋市）竹市靖公社長ら三十人が宿泊した。役員や近隣店舗の店長と来春採用内定者二十人が、野外炊飯やキャンプファイヤーで交流を深めた。同施設では、「野外炊飯場などの施設特性を生かした企業研修は、今回が初めて」（赤堀所長）と、今後に期待を寄せている。同施設は社会教育施設として、児童・学生の課外活動などで利用されている。本年度からＮＰＯ法人愛知ﾈｯﾄ（事務局安城市）が指定管理者になったのを契機に「稼働率の向上と地元企業への貢献」として、野外炊飯場などを使った企業研修を打ち出していた。一方、社員の平均年齢が二十七歳のブロンコビリー。社員の経営参画を促す狙いで、〇五年から正社員一七〇人を対象に年三回、民間の宿泊施設で合宿を始めている。離職率の高いと言われる外食産業で優秀な人材を確保するには、会社の方向性を理解してもらい、信頼性を深める必要があると判断したためだ。

就職内定者研修を一泊二日で行うのは、初めてだが、「出されて食事を食べるのでなく、準備を共にして火を囲んで親しく話し合えたのが良かった」（竹市社長）。

当日は、肉など自社の食材を持ち込み、竹市社長が調理して、内定者に振舞う場面も。内定者の一人は「（こうした研修は）驚いたが、今から仕事に対するやる気が出てきました」などと話していた。（岡崎）

野外炊飯通じて交流を

◇ ブロンコビリー ◇

「青年の家」で内定者研修

企業の人材育成の場としての利用促進に乗り出した、愛知県の教育宿泊施設「愛知県青年の家」（岡崎市美合町、赤堀隆所長）に一日、ステーキハウス五十六店舗を展開する、ブロンコビリー（本社名古屋市）の竹市靖公社長ら三十人が宿泊した。役員や近隣店舗の店長と来春採用内定者二十人が、野外炊飯やキャンプファイヤーで交流を深めた。同施設では「野外炊飯場などの施設特性を生かした企業研修は、今回が初めて」（赤堀所長）と、今後に期待を寄せている。同施設は社会教育施設として、児童・学生の課外活動などで利用されている。本年度からＮＰＯ法人愛知ネット（事務局安城市）が指定管理者になったのを契機に「稼働率の向上と地元企業への貢献」として、野外炊飯場などを使った企業研修を打ち出していた。一方、社員の平均年齢が二十七歳のブロンコビリー。社員の経営参画を促す狙いで、〇五年から正社員一七〇人を対象に年三回、民間の宿泊施設で合宿を始めている。離職率が高いと言われる外食産業で優秀な人材を確保するには、会社の方向性を理解してもらい、信頼性を深める必要があると判断したためだ。

就職内定者研修を一泊二日で行うのは、初めてだが「出された食事を食べるのでなく、準備を共にして火を囲んで親しく話し合えたのがよかった」（竹市社長）。

当日は、肉など自社の食材を持ち込み、竹市社長が調理して、内定者に振舞う場面も。内定者の一人は「（こうした研修は）驚いたが、今から仕事に対するやる気が出てきました」などと話していた。（岡崎）

野外炊飯場を活用して、就職内定者研修を行ったブロンコビリーでは、竹市社長（写真右）自ら調理した

ボラセン見てある記

なごやボランティア・NPOセンター情報誌　2006.9月号

ボランティアなんて言わなくても、困ったときの助け合いが広がればいいんです。(刈谷市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動支援ｾﾝﾀｰ所長牧野さんに伺いました)

ｾﾝﾀｰに人が、情報が、集まるように努力

刈谷市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動支援ｾﾝﾀｰ(以下、ｾﾝﾀｰ)にはﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動をする人に便利なｽﾍﾟｰｽがあり、印刷機や製本機などの機材が使えます。会議室はありませんが、大小の談話ｽﾍﾟｰｽは開放的で、団体同士の交流が生まれるような形になっています。市長活動やﾎﾞﾗﾝﾃｨｱをしている個人・団体は、登録をすれば作業室・談話ｽﾍﾟｰｽは無料で使えます。ｾﾝﾀｰはﾎﾞﾗﾝﾃｨｱをする人たちにとって、気軽に立ち寄れる便利な施設「ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱのｺﾝﾋﾞﾆ」でありたい。そうすればいろいろな人や団体さんがここに来てくれる!情報が集まってくる!と、期待しているのです。

市民に使いやすい情報ｻｲﾄを運営

ｾﾝﾀｰは「かりや市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動情報ｻｲﾄ」の運営をしています。このｻｲﾄには、市内のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動の情報が一元化されています。刈谷は南北に長い、人口14万人の市です。 社会福祉協議会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰも精力的に活動していて、福祉関連のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｻｰｸﾙの活動が活発です。また複数の企業の本社・工場があり、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾏｲﾝﾄﾞの高い企業人が多いまちでもあります。市民が市民活動やﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに参加しやすくするために、刈谷市では社会福祉協議会や企業、各機関と協議し、情報を一元化し発信できるようにしました。ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動を探す時やﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを募集する時、ｲﾍﾞﾝﾄ案内を発信したい時など、このｻｲﾄを使えばとても簡単で、各家庭のﾊﾟｿｺﾝから、収集・発信・参加申込みができます。

2003年10月にｾﾝﾀｰがｵｰﾌﾟﾝする時に、ITに詳しい「特定非営利活動法人NPO愛知ﾈｯﾄ」に管理運営が委託されました。(現在は指定管理者として管理運営をしています)

ﾏｯﾁﾝｸﾞ業務を大事にしている

ｾﾝﾀｰでは、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの「ﾏｯﾁﾝｸﾞ」というｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ業務を大事にしています。ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱをしたい人は、どんな希望を持っているのか。ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱがほしい団体・個人は、どのような人材を求めているのか。それぞれによく話を聞いて、つなぐのが役割です。ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱは特別な人がする活動ではありませんが、初めての人には、少し背中を押してあげることも必要です。時にはｽﾀｯﾌが一緒に活動に出かけることもあります。こんな風にして、刈谷のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ人口が増えてくれるといいな、と思っているのです。

「平和伝えたい」中国語猛特訓

「ぞうれっしゃ」来月南京で公演

中日新聞　2006.9.24　県内版

中国・南京で十月七日に合唱組曲「ぞうれっしゃがやってきた」を公演する「愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団」は二十三日、岡崎市美合町の県青年の家で最終合宿に入った。創立二十一年目にして初の中国公演。団員たちは、一泊二日の特訓で平和の歌声を中国大陸に響かせようと中国語の歌詞に挑んでいる。

合宿の冒頭、作曲者の藤村記一郎（五四）＝日進市＝は「自分たちの平和への思いが伝えられるコンサートにしよう」と団員に呼び掛けた。

県内を中心に四歳から七十代までの団員約一二十人の表情は真剣そのもの。ピアノ伴奏に合わせ、中国語の一フレーズずつ習得していった。

「ぞうれっしゃ」は戦時中、軍の命令で殺されそうになった東山動物園（名古屋市）のゾウを職員が守り抜いたという実話を題材にした合唱曲。戦後、生き延びた二頭の象を見ようと列車で向かう子どもの様子を四十分間の曲にまとめている。

十年ほど前から「戦時中に大虐殺があったとされる南京で公演したい」と希望を持っていた藤村さん。昨年十二月に南京国際平和研究所の所長が快諾し、草の根音楽交流が実現した。

日程は、十月六日から四日間。本公演のほか、南京大虐殺記念館を見学し、地元で国民学校６年生の時に終戦を迎えた主婦原夏子さん（七三）＝名古屋市＝は「中国の人たちと仲良くしていく、きずなをつくりたい」。

植田小五年の山口莉奈さん（一一）＝同市＝は「歌を通じて平和のメッセージを届けたい」と目を輝かせた。

2006年(平成18年)9月24日(日曜日)　西河

「平和伝えたい」中国語猛特訓

「ぞうれっしゃ」来月南京で公演

中国・南京で十月七日に合唱組曲「ぞうれっしゃがやってきた」を公演する「愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団」は二十三日、岡崎市美合町の県青年の家で最終合宿に入った。創立二十一年目にして初の中国公演。団員たちは、一泊二日の特訓で平和の歌声を中国大陸に響かせようと中国語の歌詞に挑んでいる。（石原泰智）

藤村記一郎団長(左)の指揮で、中国語の歌詞を歌う団員たち＝岡崎市の県青年の家で

合宿の冒頭、作曲者の藤村記一郎団長(五四)＝日進市＝は「自分たちの平和への思いが伝えられるコンサートにしよう」と団員に呼び掛けた。

県内を中心に四歳から七十代までの団員約百二十人の表情は真剣そのもの。ピアノ伴奏に合わせ、中国人女性の指導を受けながら中国語の歌詞を一フレーズずつ習得していった。

「ぞうれっしゃ」は戦時中、軍の命令で殺されそうになった東山動物園（名古屋市）のゾウを職員が守り抜いたという実話を題材にした合唱曲。戦後、生き延びた二頭の象を見ようと列車で向かう子どもの様子を四十分間の曲にまとめている。

1フレーズずつ歌詞習得

合唱団が宿合最終

十年ほど前から「戦時中に大虐殺があったとされる南京で公演したい」と希望を持っていた藤村さん。昨年十二月に南京国際平和研究所の所長が快諾し、草の根の音楽交流が実現した。

日程は十月六日から四日間。本公演のほか、南京大虐殺記念館を見学し、地元の小学生と交流する。団員で国民学校六年生の時に終戦を迎えた主婦原夏子さん(七三)＝名古屋市＝は「中国の人たちと仲良くしていく、きずなをつくりたい」。

植田小五年の山口莉奈さん(一一)＝同市＝は「歌を通じて平和のメッセージを届けたい」と目を輝かせた。

「ぞうれっしゃ」合唱団185人、南京へ出発

10年越し、平和の歌響け

団長「音楽で友情を」

戦時中、関係者にぞうれっしゃ東山動物園（名古屋市）のゾウを守った合唱曲「ぞうれっしゃがやってきた」の演奏会を、名古屋市の合唱団が中国・南京で開くことになり、6日出発した。「中国の人たちと、平和への思いを共有したい」。10年越しの願いを、いま歌に乗せる。（岩佐川麗）

公演を前に中国語を交えた歌の練習に余念がない合唱団員たち＝岡崎市美合町の県青年の家で

南京に旅立ったのは、「ぞうれっしゃ」を作曲した日進市の元高校教諭、藤村記一郎さん(五四)。中学や大学などの合唱団を団員とする「愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団」のメンバー185人を集めた編成。サポートメンバー約60人を合わせ、幼稚園児から70歳代までの世代を超えた編成だ。

公演先に南京を選んだのは、平和を願う気持ちをアジアの隣人と共有したいと考えたからだ。十数年前、歌の元になった「ゾウ列車」の運転から50年を記念する企画案を考えていた際、合唱団のメンバーから提案された。現地調査や関係機関との交渉など10年以上かけて準備し、ようやく実現にこぎつけた。

公演のほかに南京大虐殺記念館の見学や一般家庭の訪問も予定している。地元小学校との交流会もあり、藤村団長は「参加者が過去の歴史に目を背けず、平和を考える きっかけになってほしい。たとえ言葉は通じなくても、万国共通の音楽を通じて未来を担う子どもたちが互いに友情を深めてくれたら」と公演に期待を込めている。

南京は、旧日本軍による「南京大虐殺」の現場で、今なお日感情が根強く残る。「平和を願う気持ちは私たちも同じ。平和な未来を実現するために、とにかく手を携えて歩んでいきたい」との思いを伝えたいという。

一行は、準備を利用して3泊4日の予定で現地に滞在する。7日夜に、約千人収容の南京芸術学院ホールで開かれる公演では、地元の中学や大学などの合唱団と一緒に「ぞうれっしゃ」を合唱する。団員一同は、一部を中国語で歌おうと何度もかみ合わせて中国側の家族をマスター。当日は、観客32,000人による国境を超えた大合唱が実現する予定だ。

NPO愛知ネット　マスコミ･メディア活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

冬合宿に参加を

中日新聞　2006 年 10 月 27 日(金)

小中高生とお年寄りが岡崎美合町の県青年の家で合宿する「であい・ふれあい・わかちあい冬合宿」が 12 月 23－25 日の 2 泊 3 日である。県教育委員会主催。県内在住在学の小 4 から高３までと 65 歳以上の高齢者。孫との参加も歓迎。定員は 80 人程度。高齢者から、たこ揚げやはねつきなど伝統的な遊びを教えてもらう。参加 8900 円。官製はがきに「であい・ふれあい・わかちあい冬合宿参加希望」と横書きし住所、氏名（未成年者の場合は、保護者の氏名を併記）と学校学年、電話番号など書いて〒４６０　８５３４　名古屋市中区三の丸 3 の 1 の２、県教委生涯学習課社会教育推進グループへ。締め切りは今月 31 日(当日消印有効)。

長～く揺らそ～　秋葉憩いの広場で　ゆ～らフェス開く

安城ホームニュース

木材や紙､ﾌﾟﾗｽﾁｯｸなどの廃材を再利用した造形物の揺れる時間の長さを競ったﾕﾆｰｸな「ゆ～らﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ」が秋葉いこいの広場ﾚｽﾄﾊｳｽで開かれ､親子ら約 40 人が参加しました。

「ゆ～ら」は､愛知産業大学の大野幾生助教授が考案したｹﾞｰﾑ｡小さな子どもからお年寄りまで一緒になって楽しめることから､徐々に輪が広がっています。

この日は段ﾎﾞｰﾙや菓子箱など､紙だけを材料に制作｡参加者は長く揺らすために重りの配置やﾊﾞﾗﾝｽなどを考えて創意工夫｡それぞれ完成した｢ゆ～ら｣は､円形や半円形､楕(だ)円形などﾊﾞﾗｴﾃｨｰ豊かで､ｲﾗｽﾄやﾃﾞｺﾚｰｼｮﾝも施されました。

協議はﾄｰﾅﾒﾝﾄで 2 人ずつ対戦し､30 センチ四方の台の上で合図とともに｢ゆ～ら｣を揺らしてスタート。ベスト８ほどになると、平均 30 秒は揺れ続ける"猛者“ばかりに。中には自分の「ゆ～ら」に合わせて無意識に体が揺れてしまう人もいて、大いに盛り上がっていました。

決勝は西尾市の岩崎真由美さん（２７）と一晟君（１０）の親子対決。どちらも半円形で高い完成度でしたが、３８秒で真由美さんが勝利｡4 秒差で惜しくも優勝を逃した一晟君は「悔しいけど、次は絶対に優勝したいです」と話していました。

求むポルトガル語通訳

西三河の自治体、増員急ぐ　ブラジル人増加　窓口に列

日本経済新聞　2006.11.11　夕刊11面

愛知県西三河地区の自治体でﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語の通訳を増やす動きが広がっている｡自動車関連の工場が集積する同地区では好調な自動車輸出を背景にどこの工撮も人手が不足､ﾌﾞﾗｼﾞﾙ人労働者が増えているため｡窓口に通釈待ちの列ができる自治体もあるほどで､通訳の苦言大を受けて自治体向けに通釈ｻｰﾋﾞｽを提供する団体まで登場している。

年間五百～六百人のﾍﾟｰｽでﾌﾞﾗｼﾞﾙ人が増えている岡崎市。市内の多くの工場が夜間の勤務ｼﾌﾄを入れ替える月曜日になると､ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語の通釈が常駐する市役所の市民相談班にはシフト変更で日中に時間が空いたブラジル人の列ができる。用件は市営住宅の申し込みからｺﾞﾐ出しに関する問い合わせ､税金相談まで様々｡担当部署まで案内し､付きっきりで職員との会話を通訳する｡「昼食をとる暇がない｡」通訳のさんは悲鳴壱上げる｡市民相談班には三人の通訳が常艦するが､昨年度は二人で一万件近くの通訳･･をこなした｡さらに相談件数は増える一方で､五月からはﾌﾞﾗｼﾞﾙ人の利用が多い市営住宅の申込憲口には一手を一人ｷﾞｽさせた?

二悪筆写ﾗﾌﾞﾙ人の■外国人竪録嘉はこき一二年の五万四千五百二十四人から〇五年には七万千七百三十一人に急啓｡特にﾄﾖﾀ自動申を中心に自動車開運の工場が集積する西三河地区では､増産のための人手が足りず､ﾌﾞﾗｼﾞﾙ人労働者の雇用を増やしている｡岡崎市のほか､知立市や豊田市などほかの西三河地区の自治体でも窓口でﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ宙通訳の増員を検討中だ。

ただ､｢自治体の森口の通訳には行政の知識も必要｡なかなか人材が見つからない｣ (岡崎市市民相萱の大岡あやの副主幹)という悩みも抱える｡そこで豊壌したのが愛知萎城市の特定非営利活動法人(NPO法人)･で通訳業務を代行するというｻｰﾋﾞｽ｡必棄な時だけ使えるため､刈谷市役所琶月からﾎﾟﾙ駐

朝日中はﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ体験

古切手の切り出し作業など

刈谷ホームニュース　2006.11.17

朝日中学校の3年生用10人が15日、寿町の市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動支援ｾﾝﾀｰを訪れ、古切手やﾍﾞﾙﾏｰｸなどを切り取って整理するﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動を体験した

福祉体験学習の一環として3年生約230人が3日間、ｸﾞﾙｰﾌﾟごとに病院や老人ﾎｰﾑなど20ヵ所を訪問し、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを行う。福祉について考えてもらうのが狙い。

生徒たちはﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｸﾞﾙｰﾌﾟの一起会の会員らに手順を教わり、市社会福祉協議会に市民から寄せられた大量の封筒や商品の包装袋から切手やﾍﾞﾙﾏｰｸなどをはさみで一校ずつ切り取った。

「簡単なことだけど、地域との関わりができる」と一起会会員。整理した切手は東京の老人ﾎｰﾑ、ﾍﾞﾙﾏｰｸは集計してろう学校へ贈っている。

小幡拓馬君は「今回の体験でﾎﾞﾗﾝﾃｨｱについてよく分かった」。中川郁美さんも「ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱが募金だけじゃなくて、いろいろあることが分かった」と話していた。

ラオスやカンボジアに絵本を

刈谷で市民講座始まる　27人申込み　翻訳文シール張る

毎日新聞　2007.2.20

戦乱で荒廃したﾗｵｽやｶﾝﾎﾞｼﾞｱの子どもたちに絵本を送り届けるための市民講座が20日、刈谷市寿町の刈谷市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動支援ｾﾝﾀｰで始まり、参加者たちが日本の絵本に翻訳した現地語のｼｰﾙを張る作業に取り組んだ。

ﾗｵｽやｶﾝﾎﾞｼﾞｱでは長年の内戦で学校が破壊され、先生たちも犠牲になって教育環境が極度に悪化。東京に本部を持つ社会福祉法人ｼｬﾝﾃｨ国際ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ会(SVA)は99年から、日本で出版された絵本にﾗｵｽ語やｸﾒｰﾙ語の訳文をつけ、現地に届ける運動を行っている。

この講座は同運動に協力して初めて企画、27人が参加を申し込んだ。参加費は1人2000円。講座は3回聞き、参加者は日本で出版された指定の50冊の絵本の中から好きな1冊に翻訳文のｼｰﾙを張って現地向けの絵本に加工。3月末、SVAがまとめて現地の子どもたちに送り届ける。

初日のこの日は主婦ら12人が参加。現地の子どもたちが読んでボロボロになった翻訳絵本を前にｽﾀｯﾌから説明を聴き、あらかじめ印刷された翻訳ｼｰﾙを切り抜いて絵本に張り付けた。

参加した高島美智子さん(33)は「うちの子も絵本好き。現地の子どもたちの喜ぶ顔が目に浮かびます」。青年海外協力隊員として昨年12月までｱﾌﾘｶに滞在した深谷友和さん(30)は「少しでも国際協力に貢献したい」と作業に打ち込んでいた。【坂東伸二】

ラオスやカンボジアに絵本を

戦乱で荒廃したラオス　ちに絵本を送り届けるためのやカンボジアの子どもた　市民講座が20日、刈

現地に送る絵本に翻訳シールを張る参加者　刈谷市民ボランティア活動支援センターで

刈谷で市民講座始まる

27人申し込み 翻訳文シール張る

谷市寿町の刈谷市民ボランティア活動支援センターで始まり、参加者たちが日本の絵本に翻訳した現地語のシールを張る作業に取り組んだ。

ラオスやカンボジアでは長年の内戦で学校が破壊され、先生たちも犠牲になって教育環境が極度に悪化。東京に本部を持つ社会福祉法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）は99年から、日本で出版された絵本にラオス語やクメール語の訳文をつけ、現地に届ける運動を行っている。

この講座は同運動に協力して初めて企画、27人が参加を申し込んだ。参加費は1人2000円。講座は3回聞き、参加者は日本で出版された指定の50冊の絵本の中から好きな1冊に翻訳文のシールを張って現地向けの絵本に加工。3月末、SVAがまとめて現地の子どもたちに送り届ける。

初日のこの日は主婦ら12人が参加。現地の子どもたちが読んでボロボロになった翻訳絵本を前にスタッフから説明を聴き、あらかじめ印刷された翻訳シールを切り抜いて絵本に張り付けた。

参加した高島美智子さん(33)は「うちの子も絵本好き。現地の子どもたちの喜ぶ顔が目に浮かびます」。青年海外協力隊員として昨年12月までアフリカに滞在した深谷友和さん(30)は「少しでも国際協力に貢献したい」と作業に打ち込んでいた。【坂東伸二】

NPO愛知ネット　マスコミ･メディア活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

市民活動拠点　次の一手

登録団体の連携醸成へ　来場１万人超す　安城・わくわくセンター

2007.3.9　中日新聞朝刊　西三河版 20 面

市民活動の拠点として二〇〇五年一月にｵｰﾌﾟﾝした安城市大山町の安城市民活動ｾﾝﾀｰ(通称･わくわくｾﾝﾀｰ)の来場が、一万人を突破した。開所から二年二カ月。少しずつ利用者が増える一方で、市民団体同士の協力など課題も見えてきた。(宇佐美尚)

ｾﾝﾀｰに登録しているのは、二月末現在で二百十九団体。福祉や環境、子育て、まちづくりなどさまざま。ｵｰﾌﾟﾝ当初の四倍ほどに増え、「市内の主だった団体は大半が登録してくれた」と、ｾﾝﾀｰ長の野村剛生さんは胸を張る。登録団体は、ｾﾝﾀｰの印刷機やﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽなどを無料で利用でき、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを使った情報発信も可能だ。

市民活動を盛り上げるため、野村さんは「団体の集約はある程度の形になった。団体同士をどうつなぐかがﾎﾟｲﾝﾄ」とみる。実際、一月から始まった防災の市民講座は、講座企画などを手掛ける団体と、防災活動に取り組む団体の協力で実現した。

ただ、実際に利用する団体は「登録しているうちの半数くらい」で、複数の団体が互いの活動内容を知り合う機会は少ないという。

現在、活動内容を発表する催しや、異なる分野の団体が一つのテーマで議論するﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝなど、団体同士の交流を深めるｱｲﾃﾞｱが出ており、野村さんは「これからは、さまざまな人を引き込んでいく仕掛けに力を入れたい」と意気込んでいる。

中日新聞　2007年(平成19年)3月9日(金曜)

西三河版

市民活動拠点 次の一手

安城・わくわくセンター

登録団体の連携醸成へ

来場１万人超す

市民活動の拠点として二〇〇五年一月にオープンした安城市大山町の安城市民活動センター（通称・わくわくセンター）の来場者が、一万人を突破した。開所から二年二カ月。少しずつ利用者が増える一方で、市民団体同士の協力など課題も見えてきた。（宇佐美尚）

センターに登録しているのは、二月末現在で二百十九団体。福祉や環境、子育て、まちづくりなどさまざま。オープン当初の四倍ほどに増え、「市内の主だった団体は大半が登録してくれた」と、センター長の野村剛生さんは胸を張る。登録団体は、センターの印刷機やミーティングスペースなどを無料で利用でき、ホームページを使った情報発信も可能だ。

市民活動を盛り上げるため、野村さんは「団体の集約はある程度の形になった。団体同士をどうつなぐかがポイント」とみる。実際、一月から始まった防災の市民講座は、講座企画などを手掛ける団体と、防災活動に取り組む団体の協力で実現した。

ただ、実際に利用する団体は「登録しているうちの半数くらい」で、複数の団体が互いの活動内容を知り合う機会は少ないという。

現在、活動内容を発表する催しや、異なる分野の団体が一つのテーマで議論するパネルディスカッションなど、団体同士の交流を深めるアイデアが出ており、野村さんは「これからは、さまざまな人を引き込んでいく仕掛けに力を入れたい」と意気込んでいる。

2007年一月のオープン記念で会場は子連れ来場者でにぎわう人を集めた安城市民活動センター＝安城市大山町で

アサミ（1）

大浜陣　新聞

中部ＦＭ新聞販売協会

ニュース、情報は下記へ

住　安城

052-235-1650・5919

Ｅメール

shakai@chunichi.co.jp

安っ晴れ☆ﾏﾙﾁ才能で引っ張りだこ★

安城ホームニュース　2007.1.27

昨年、三鷹 SOHO 倶楽部(ｸﾗﾌﾞ)主催の栄えある 1 回目の「日本 SOHO 大賞」に、全国からただひとり選ばれた舟橋正浩さん(３４)=藤井町。ﾌﾘｰﾗﾝｽのｺﾝｻﾙﾀﾝﾄとして、北海道から九州まで飛び回っています。

幅広いﾈｯﾄﾜｰｸと行動力、ﾊﾟｿｺﾝなども含めた多岐にわたる専門的な知識の持ち主で、約 2 年前からは大山町の市民活動ｾﾝﾀｰのｽﾀｯﾌも務めるように。「地域や文化の違いも超えて人を結ぶつなき役みたいなものです。最近では地元とのかかわりも深まって良かったと思います」

ﾏﾙﾁな才能で各方面からは引っ張りだこ。2 児の父親として育児や家事もしっかり協力しているそうで、まさに現代の多様なﾗｲﾌｽﾀｲﾙを体現するﾄｯﾌﾟﾗﾝﾅｰ。

昨年、三鷹SOHO倶楽部（クラブ）主催の栄えある1回目の「日本SOHO大賞」に、全国からただひとり選ばれた舟橋正浩さん（34）＝藤井町、フリーランスのコンサルタントとして、北海道から九州まで飛び回っています。幅広いネットワークと行動力、パソコンなども含めた多岐にわたる専門的な知識の持ち主で、約2年前からは安城町の市民活動センターのスタッフも務めるように。「地域や文化の違いも超えて人を結ぶつなき役みたいなものです。最近では地元とのかかわりも深まって良かったと思います」

マルチな才能で各方面からは引っ張りだこ。2児の父親として育児や家事もしっかり協力しているそうで、まさに現代の多様なライフスタイルを体現するトップランナー。

☆マルチ才能で引っ張りだこ★

安っ晴れ　☆人や団体の掛け橋に★

安城ホームニュース　2007.2.24

「いろいろな人と付き合えるのは楽しい。自分自身の勉強にもなります」と柔和な笑みを浮かべる野村剛生(かねたか)さん(61)=姫小川町。

安城市民活動ｾﾝﾀｰのｾﾝﾀｰ長として 2 年目を迎え、充実した日々を過ごしています。

デンソーに長年勤め、同社のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動の支援組織「ﾊｰﾄﾌﾙｸﾗﾌﾞ」へ参加したことが市民活動に興味を抱いたきっかけ。先輩の勧めもあり、定年後の”第２の人生”をｽﾀｰﾄさせました。

同ｾﾝﾀｰでの主な仕事は 3 つ。NPO 法人の立ち上げやﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体などの橋渡し、市民活動に関する情報の発信、それに伴う各種印刷物の作成などを行っています。「人や団体の掛け橋(ﾏｯﾁﾝｸﾞ)となれたときの喜びは最高。大きなやりがいを感じます」

☆人や団体の掛け橋に★

「いろいろな人と付き合えるのは楽しい。自分自身の勉強にもなります」と柔和な笑みを浮かべる野村剛生（かねたか）さん（61）＝姫小川町。安城市民活動センターのセンター長として2年目を迎え、充実した日々を過ごしています。

デンソーに長年勤め、同社のボランティア活動の支援組織「ハートフルクラブ」へ参加したことが市民活動に興味を抱いたきっかけ。先輩の勧めもあり、定年後の”第2の人生”をスタートさせました。

同センターでの主な仕事は3つ。NPO法人の立ち上げやボランティア団体などの橋渡し、市民活動に関する情報の発信、それに伴う各種印刷物の作成などを行っています。「人や団体の掛け橋（マッチング）となれたときの喜びは最高。大きなやりがいを感じます」

わくわくだより　好きなこと生かそう

ボランティア活動　個人登録で情報紹介

安城ホームニュース　2006.5.27

安城市民括動センターでは「ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動がしたい!」という方に個人登録をして頂いています。

登録の際には、どんな活動が希望か、活動できる日時などをお聞きしています。希望のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ情報が入れば、紹介させてもらうからです。

登録者の 1 人である永井洋子さん（安城町)は、「人と関わる活動がしたい」とｾﾝﾀｰに訪ねて来られました。横山町のﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ「ゆめりん」で、利用者との話し相手ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを紹介したところ、今では月 2 回ほどの活動を続けられています。

活動内容はお年寄りと一緒に運動したり、世間話をするなど。永井さんが来る日を、皆さんが心待ちにされているそうです。「人生の大先輩とお話をして、心に響くもの、学ぶものがあります。私は人と話すことが大好き。ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱって難しいものではなく、人それぞれの好きなものを生かす場だと思います」と永井さん。自分にぴったりのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを見つけたい方。ぜひ、ｾﾝﾀｰを訪ねてみてください。

ース　平成18年5月27日　土曜日　（2）

わくわくだより

市民活動センター

好きなこと生かそう

ボランティア活動　個人登録で情報紹介

安城市民括動センターでは「ボランティア活動がしたい!」という方に個人登録をしています。

登録の際には、どんな活動が希望か、活動できる日時などをお聞きしています。希望のボランティア情報が入れば、紹介させてもらうからです。

登録者の1人である永井洋子さん（安城町）は、「人と関わる活動がしたい」とセンターに訪ねて来られました。横山町のデイサービスセンター「ゆめりん」で、利用者との話し相手ボランティアを紹介したところ、今では月2回ほどの活動を続けられています。

活動内容はお年寄りと一緒に運動したり、世間話をするなど。永井さんが来る日を、皆さんが心待ちにされているそうです。「人生の大先輩とお話をして、心に響くもの、学ぶものがあります。私は人と話すことが大好き。ボランティアって難しいものではなく、人それぞれの好きなもの生かす場だと思います」と永井さん。

自分にぴったりのボランティアを見つけたい方、ぜひ、センターを訪ねてみてください。☎(21)8801。

ゆめりんでは「わくわくセンター」に登録している団体を案内、イベントなどを紹介しています。

利用者と世間話をする永井さん（右から2人目）

わくわくだより　ネットでＰＲ

安城ホームニュース　2006.6.24

わくわくｾﾝﾀｰでは、市民活動情報をｲﾝﾀｰﾈｯﾄ上で公開しています。自分たちの活動やｲﾍﾞﾝﾄ、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの募集など、広く PR できます。

情報ｻｲﾄをより便利に使っていただけるように、「あんじょう市民活動情報サイト」の利用説明会を開催しています。ﾊﾟｿｺﾝ操作が苦手という方でも安心です。原稿やチラシ、写真などを持ってきていただければ、登録方法、団体の活動紹介ページをｽﾀｯﾌが説明しながら一緒に作成します。個別対応のため、希望される方は事前に問い合わせ下さい。

開催時間は午前 10 時－11 時 30 分、午絶 6 時 30 分－ 8 時。希望の時間帯を選んで参加して下さい。また、時間が合わないようであれは相談に応じます。

わくわくだより
市民活動センター
市民活動情報サイト ネットでPR

わくわくだより
市民活動センター
情報サイトのご利用を
ボランティア募集に効果大

わくわくだより　情報サイトのご利用を

ボランティア募集に効果大

安城ホームニュース　2006.7.22

障害のある子どもの親が中心となり、勉強会やﾚｸﾘｴｰｼｮﾝを行っている「安城市心身障害児を持つ親の会『ひまわり会』」。会員の子どもたちが毎夏楽しみにしているイベント「七夕会」では、今年もボランティアを募って開催しました。

ボランティア募集の窓口として「あんじょう市民活動情報ｻｲﾄ」(http://www.genki365.com/anjo/)を活用したところ、16 人もの方々から申し込みがありました。

ボランティアとして参加した皆さんは、会場の飾り付けをはじめ、ｹﾞｰﾑを担当したり、ﾍﾟﾝｼﾙﾊﾞﾙｰﾝを作ったりと大活躍。同じくﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとして参加したﾀﾞﾝｽｸﾞﾙｰﾌﾞ「ｿｳﾙ・ｽﾀｰｽﾞ」は、歌に合わせたﾀﾞﾝｽを指導。参加者とｽﾀｯﾌ全員で踊り、会場は大いに盛り上がっていました。

ひまわり会会長の稲垣裕子さんは「情報サイトを通じて多くのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱさんが集まり、手際よく準備し、盛り上げてくださったので助かりました」とよろこんでいました。

ボランティア募集には「あんじょう市民活動情報ｻｲﾄ」を活用するのもひとつの方法ですよ。

わくわくだより　100 歳超えてもボランティア

安城ホームニュース　2006.8.26

笑顔がすてきで、とても元気な木附ﾂｷﾞさんは来月 102 歳の誕生日を迎えます。木附さんの 1 日は朝 5 時 45 分に起き、健康体操をし、コップ 1 杯の牛乳を飲んで始まります。

木附さんは若いころから編み物が得意。時間があれば帽子やｱｸﾘﾙたわしを編んで「わくわくｾﾝﾀｰに寄贈してくださいます。木附さんが編む作品は丁寧に編み込まれ、温かみのある仕上がりです。

「わくわくｾﾝﾀｰ」には木附さんから頂いた作品と、木附さんの写真が飾ってあります。作品を見た方は「100 歳を過ぎても人の役に立てるということは素晴らしいですね！」と感動され、木附さんから元気のおすそ分けも頂いているようです。

作品は来訪された方々の要望に応じて差し上げており、当ｾﾝﾀｰはもちろん、多くのご家庭で木附さんのｱｸﾘﾙたわしが使われています。中には「活動の励みになります！」と、大切に飾られている方もみえるとか。

身近なことから始められるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ。木附さんのｱｸﾘﾙたわしを通じて、人の役に立つ喜びの輪が広がることを心から願います。

平成18年8月26日　土曜日　（2）

わくわく使り

市民活動センター

100歳超えてもボランティア

木附ツギさん

来月102歳の誕生日を迎える木附ツギさん

平成18年9月23日　土曜日　（2）

わくわく使り

市民活動センター

長〜く揺らすユニークなレク

11月には「ゆ〜らフェス」も

スキルアップ講座として行われた「ゆ〜ら公式審判講習」

わくわくだより　長〜く揺らすユニークなレク

11 月には「ゆ〜らフェス」も

安城ホームニュース　2006.9.23

子どもからお年寄りまで同じ土俵に立って競い、楽しめるﾚｸﾘｴｰｼｮﾝﾒﾆｭｰ「ゆ〜ら」。

「ゆ〜ら」は廃材を利用した揺れ動く造形物のこと。ｽﾃｰｼﾞ(ｽﾃﾝﾚｽ版)の上で、どれだけ長く揺らせられるかを競うﾕﾆｰｸな遊びです。

「ゆ〜ら」の面白さは何と言っても自分の手で造形物を作ることにあります。世界でたった 1 つの新しい ” いのち ” を吹き込むﾜｸﾜｸ感はたまりません。

そして「ゆ〜らﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ」を取り仕切るのが「ゆ〜ら公式審判員」。わくわくｾﾝﾀｰでは、第 7 回ｽｷﾙｱｯﾌﾟ「ゆ〜ら」で一緒にｴｷｻｲﾄしましょう！講座として「ゆ〜ら公式審判講習」を行い、運営方法から盛り上げ方のｺﾂなど、愛知産業大学の大野幾生助教授よりご指導いただきました。

審判の実技演習では参加者全員が順番にﾏｲｸを持ち、会場を盛り上げる司会者役に挑戦。それぞれ味のあるﾏｲｸﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽを披露していました。

11 月 5 日(日)には「ゆ〜らﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ in 秋葉ﾚｽﾄﾊｳｽ」を開催予定。審判講習を受けたﾒﾝﾊﾞｰが会場を大いに盛り上げますので、みなさんもぜひ参加を。

NPO愛知ネット　マスコミ･メディア活動記録2006

その活動は、災害時の情報のために

わくわくだより　ボランティアの橋渡し

個人や団体登録者も募集中

安城ホームニュース　2006.10.28

皆さんがさまざまな活動をしていく中で「こんな情報があったらいいな」「力を貸して下さる人がいたら…」「こんな人たちと一緒に活動できたら…」などと思ったことはありませんか？

わくわくｾﾝﾀｰではﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰとして、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱをしたい人と、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱが必要な人々の橋渡しとなる「ﾏｯﾁﾝｸﾞ」を行っています。

ﾏｯﾁﾝｸﾞは、まず活動したい人の希望や真意を確認します。次にその意に合った人々や団体をいくつか紹介し、本人の意思で参加する活動を選択。最後に活動の受け入れ先と調整し、実際の活動に参加してもらいます。 事例として、ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽや町内会などで唄や踊りを披露してくれる人、各種イベントの手伝いをしてくれる人々を探したい時など、条件に合う個人登録者や団体などを紹介しています。「書」をテーマに活動する山本さんも、わくわくｾﾝﾀｰに個人登録する 1 人。写真はわくわくｾﾝﾀｰ紹介の講師として「安城まちの学校」(文部科学省「地域子ども教室」委託事業)で、子どもたちに「書」を教えている様子です。

皆さんも趣味や特技、資格などを生かしてﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動をしませんか?　わくわくｾﾝﾀｰに登録し、安城の市民活動を盛り上げましょう！

ボランティアの橋渡し

個人や団体登録者も募集中

市民活動センター

資料作りに困ったら？

便利な作業スペース

市民活動センター

わくわくだより　資料作りに困ったら？

便利な作業スペース

安城ホームニュース　2006.11.25

市民活動をしていく上で、資料作りのための機器や機材がなくて因ったことはありませんか?

わくわくｾﾝﾀｰに団体・個人登録をすると、会報やﾁﾗｼなどを作るための機器や機材を利用することができます。今回は、わくわくｾﾝﾀｰの便利な作業ｽﾍﾟｰｽについて紹介します。

まずはﾊﾟｿｺﾝを使ってﾁﾗｼなどの原稿を作成する際に、ｽﾀｯﾌが相談に応じます。作成したものを印刷機(用紙は持ち込み)で印刷し、紙折り機で 3 つ折りのﾘｰﾌﾚｯﾄなどを作ることができます。

複数枚ある原稿は、丁合機で整理することも。さらに電動ﾎﾁｷｽや製本機を利用すれば、厚みのある資料も効率よく作ることができます。ほかにも屋外での掲示などにもぴったりなA3ｻｲｽﾞ対応のﾗﾐﾈｰﾀｰを完備しています（ﾌｨﾙﾑは持ち込み)。

また、館内のみの利用に限りますが、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝなどに役立つﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰとｽｸﾘｰﾝの貸し出しもしています。※いずれも事前予約ができます。

たくさんの便利な道具が揃っているわくわくｾﾝﾀｰを活用して、活動の幅を広げてください。皆さんの投に立つこと間違いなしです。

今から活動を始めようと考えている方も、ぜひ一度、わくわくｾﾝﾀｰにお越しください。お待ちしております。

わくわくだより　利用しやすいセンターへ

運営や活動などのご意見を

安城ホームニュース　2007.1.27

安城市民活動ｾﾝﾀｰ(愛称・わくわくｾﾝﾀｰ)では、ｾﾝﾀｰの適正な管理及び運営を図るため、運営委員会を設けています。

運営委員はｾﾝﾀｰ登録団体からの公募委員をはじめ、市民活動に関わるさまざまな立場の方々10 名で構成されています。

昨年 12 月には第 1 回目の運営委員会を開催し委員長に太田克子さん(ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ連絡協議会会長)、副委員長に小鹿登美さん(さんかく 21・安城会長)が選出されました。

委員の方々からは「わくわくセンターの開設は、安城市が『市民が主役』を具現化した良い例である」、「団塊の世代でこれから NPO を立ち上げたいと思う人もいるので、その人たちに支援できる体制を整えるべき」、「資料作成や情報収集、発信に活用させてもらっている。あとは、落ちついて会議のできる場所が欲しい」などの積極的な意見が飛び交い、わくわくｾﾝﾀｰへの期待の高さを感じました。

わくわくｾﾝﾀｰはｵｰﾌﾟﾝから 3 年目。これからも皆さんの声を反映し、利用しやすいｾﾝﾀｰにしていきたいと思いますので、ぜひｾﾝﾀｰの運営や市民活動に関するご意見をお寄せください。ｽﾀｯﾌ一同お待ちしております。

平成19年1月27日　土曜日　(2)

わくわく使り

市民活動センター

利用しやすいセンターへ
運営や活動などのご意見を

安城市民活動センター（愛称・わくわくセンター）では、センターの適正な管理を図るため、運営委員会を設けています。

運営委員はセンター登録団体の公募委員をはじめ、市民活動に関わるさまざまな立場の方々10名で構成されています。昨年12月には第1回目の運営委員会を開催し、委員長に太田克子さん（ボランティア連絡協議会会長）、副委員長に小鹿登美さん（さんかく21・安城会長）が選出されました。

委員の方々からは「わくわくセンターの開設は、安城市が『市民が主役』を具現化した良い例である」、「団塊の世代でこれからNPOを立ち上げたいと思う人もいるので、その人たちに支援できる体制を整えるべき」、「資料作成や情報収集、発信に活用させてもらっている。あとは、落ちついて会議のできる場所が欲しい」などの積極的な意見が飛び交い、わくわくセンターへの期待の高さを感じました。

わくわくセンターはオープンから3年目。これからも皆さんの声を反映し、利用しやすいセンターにしていきたいと思いますので、ぜひセンターの運営や市民活動に関するご意見をお寄せください。スタッフ一同お待ちしております。

ース　平成19年2月24日　土曜日　(2)

わくわく使り

市民活動センター

男女共同参画って？
「安希の会」がパンフ作製

あなたの男女共同参画度は何パーセントだと思いますか？

「安希（あき）の会」が初めて市と協働で作製したパンフレット『男女共同参画ってなぁに?』が出来上がりました。このパンフレットは、ご自身の男女共同参画度について診断できる項目もあり、男女共同参画について関心のない人にも興味を持ってもらえるように工夫されています。

「安希の会」は、市が開催したエンパワーメント講座修了生のグループ。エンパワーメントとは幅広い社会生活を送るうえで必要な知識や能力を身につけること。同会では男女共同参画社会の実現を目指して学習会を開くなどの活動をしています。

会長の竹内久代さん＝城南町＝は「男女とも思いやりを持ってお互いを尊重できるような社会の実現に少しでもお役に立てたらと思い、パンフレット作りに取り組みました。このパンフレットを見て、男女共同参画を難しく考えずに、より多くの方に知ってもらうきっかけになればうれしい」と笑顔で話しています。

パンフレットは市内の公民館などに配布するほか、中学3年生にも配布予定。もちろん「わくわくセンター」にも置いてありますので、ぜひ手にとってご覧ください。

わくわくだより　男女共同参画って？

「安希の会」がパンフ作製

安城ホームニュース　2007.2.24

あなたの男女共同参画度は何ﾊﾟｰｾﾝﾄだと思いますか？

「安希(あき)の会」が初めて市と協働で作製したﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ『男女共同参画ってなぁに?』が出来上がりました。このﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄは、ご自身の男女共同参画度について診断できる項目もあり、男女共同参画について関心のない人にも興味を持ってもらえるように工夫されています。

「安希の会」は、市が開催したｴﾝﾊﾟﾜｰﾒﾝﾄ講座修了生のｸﾞﾙｰﾌﾟ。ｴﾝﾊﾟﾜｰﾒﾝﾄとは幅広い社会生活を送るうえで必要な知識や能力を身につけること。同会では男女共同参画社会の実現を目指して学習会を開くなどの活動をしています。

会長の竹内久代さん=城南町=は「男女とも思いやりを持ってお互いを尊重できるような社会の実現に少しでもお役に立てたらと思い、ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ作りに取り組みました。このﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄを見て、男女共同参画を難しく考えずに、より多くの方に知ってもらうきっかけになればうれしい」と笑顔で話しています。

ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄは市内の公民館などに配布するほか、中学 3 年生にも配布予定。もちろん「わくわくｾﾝﾀｰ」にも置いてありますので、ぜひ手にとってご覧ください。

NPO愛知ネットのあゆみ

その活動は、災害時の情報のために

１９９９年

4 月　NPO 愛知ネット設立

２０００年

1 月　特定非営利活動法人として、愛知県に認証される。
4 月　安城市市民パソコン教室の講師派遣　開始。
　北海道有珠山にて災害救援活動、インターネットでの情報発信を行う
5 月　安城市福祉センターにて障がい者パソコン教室を開催
9 月　東海豪雨災害で災害救援活動、インターネットでの情報発信を行う

２００１年

4 月　安城市・知立市・刈谷市 IT 講習会一般・障がい・外国人対応　開始
6 月　安城市・愛知県総合防災訓練（矢作川河川敷）参加
9 月　愛知県・新城市総合防災訓練　参加

２００２年

2 月　静岡県災害ボランティアセンター立ち上げ訓練　参加
4 月　市民防災フォーラム 2002（碧海 5 市地域対象）開催。
　日本財団助成事業　外国人のための情報支援サイトプロジェクト開始
5 月　第 1 回「親子ふれあいネットワーク」キャンプ（愛知県作手村）開催
6 月　愛知県・一宮市総合防災訓練参加
7 月　大垣荒崎地区水害で災害救援活動、インターネットでの情報発信を行う
8 月　第 2 回「親子ふれあいネットワーク」キャンプ（愛知県作手村）開催
9 月　蒲郡市・愛知県総合防災訓練参加
　名古屋市総合防災訓練　参加
11 月　安城市東栄町今本町防災訓練『北部小学校避難所体験』開催

２００３年

1 月　「みかわ NPO スクエア」プレオープン
3 月　あんじょう国際交流祭　「Anjo International Festival」開催
4 月　市民防災フォーラム 2003　開催
　日本財団助成事業　外国籍住民防災講座開始
7 月　九州豪雨・宮城県北部地震に伴う情報発信を行う
8 月　愛知県多文化共生プロジェクト「医療通訳スタッフ要請講座」開始
　「地域ふれあいネットワーク」防災　キャンプ（愛知県作手村）　開催
　愛知県・刈谷市総合防災訓練　参加
　名古屋市総合防災訓練　参加
9 月　十勝沖地震に伴う情報発信を行う
10 月　刈谷市民ボランティア活動支援センター（刈谷市より受託）オープン
11 月　幡豆町総合防災訓練　参加

２００４年

1 月　「あんぴメール」を発表
4 月　「いっつもトーク」を発表
6 月　経済産業省 市民活動活性化モデル事業（市民ベンチャー事業）「災害に強い多文化共生コミュニティ《安心・安全・安城》プロジェクト」開始
7 月　新潟豪雨災害（新潟県三条市・中之島町・見附市）救援活動
　ドコモ市民団体助成事業「CODOMO 体験キャンプ」（愛知県作手村）開催
8 月　「安城地域サポートセンター」（安城市末広町）オープン
　愛知県・豊橋市総合防災訓練（豊橋市三河港）参加
9 月　香川県高松市高潮災害救援活動
11 月　あいち中越支援ネットーワークを組織、中越地震関連支援を開始

２００５年

1 月　「安城市民活動センター」（わくわくセンター：安城市大山町：安城市より受託）オープン
6 月　安城市自主防災組織支援事業　開始
　安城市桜井公民館防災講座　開始
8 月　愛知県防災カレッジ地域講座　開講
　安城市・愛知県総合防災訓練（安城市内 5 箇所）参加
　吉良町防災訓練参加
9 月　愛知県・名古屋市総合防災訓練(名古屋市)参加
　トヨタ災害Ｖネット防災訓練参加
10 月　安城市ワード講習会　開講
11 月　市民防災フォーラム 2005(知立市) 開催
　災害情報コーディネーター養成講座 開講
12 月　行政通訳養成講座 開講

２００６年

1 月　「愛知県青年の家」（岡崎市美合町：愛知県より受託）
2 月　ウィル愛知＆ふれあいネットカーニバル　参加
3 月　刈谷市身体障がい者パソコン研修 開催
4 月　社会活動推進課研修「講演」･･･自治研修所
　愛知県新入社員研修
　トヨタ自動車新入社員研修
6 月　地域防災講座
　豊川防災訓練
　池浦防災訓練
　地域防災講座
　豊田災害ボラコ　フォローアップ講座
　ＶＣ養成講座
7 月　ＶＣ養成講座
　名大福和先生代理講演？？？
　防災講座　：　吉良
　トヨタボラセン研修
9 月　防災訓練　：　碧南市新川幼稚園
　愛知県　防災訓練
　防災講座　：　棚尾幼稚園
　デンソーＣＳＲフィーラム
10 月　子育て支援者ステップアップ講座
　ＶＣ講座　：　幡豆
　高齢者講座：中部公民館
　市民自治フォーラム：サンピア岡崎
　パネルディスカッション：ＮＰＯ交流プラザ
11 月　ＤＩＧ：日立
　防災訓練：　西尾
12 月　三菱ＵＦＪ総研　雨量テスト
　防災講演会　：　東栄今本町町内会
　トヨタＶネット　防災イベント
　ＤＩＧ　：文化センター

２００７年

1 月　講演会：安城文化センター
2 月　防災訓練：志貴
　市民協働まちづくり講座講師：豊橋市民センター　カリオンビル